

令和 2 年度（令和元年度対象）

生駒市教育委員会活動点検評価報告書

（案）

令和 2 年 月

生駒市教育委員会

生駒市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に関する 点検・評価について

生駒市教育委員会では、市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱である「生駒市教育大綱」が平成28年6月に策定されたことに伴い、本大綱で示された基本方針に基づく具体的な事業を掲げたアクションプランを平成28年8月に策定し、社会情勢の変化や点検・評価の結果を踏まえ、毎年度アクションプランを見直すこととしています。

そして、本アクションプランを基に、生駒市教育大綱の基本理念である「『遊ぼう』『学ぼう』『生きよう』みんなでいこまを楽しもう」の実現に向けて、各施策及び事業に取り組んでまいりました。

また、大綱については、4年間の推進期間の満了を迎え、これまでの社会情勢の変化やアクションプランでの取組実績・成果等を踏まえて改訂した「第2次生駒市教育大綱」が令和2年6月からスタートしています。

今回は、前大綱に基づくアクションプランに掲げられた施策及び事業を中心に、「教職員がいきいきと子どもと向き合う時間創造プログラム」において示した取組と最終年度を迎えた前大綱の総括を加えて、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき令和元年度の実績を対象に生駒市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況について、点検・評価を行いましたので、同法第26条の規定により報告します。

令和2年 月 日

生駒市教育委員会

教育長 中 田 好 昭

目 次

| | |
|--|----|
| 令和2年度（令和元年度対象）活動点検評価報告書の作成にあたって..... | 1 |
| 1 報告書の位置付け..... | 1 |
| 2 国等の動向..... | 1 |
| 3 点検評価の概要..... | 2 |
| 4 生駒市教育委員会活動点検評価委員の意見..... | 3 |
| 教育委員会の活動状況..... | 4 |
| 教育大綱に基づく施策・事業..... | 6 |
| 基本方針1 子育てを楽しめる地域づくり..... | 6 |
| 1 保護者支援の場・コミュニティづくり..... | 6 |
| 2 「遊び」を「学び」につなぐ就学前教育の充実..... | 11 |
| 基本方針2 21世紀を生き抜く優しくたくましい人づくり..... | 14 |
| 1 21世紀を生き抜く力を身につける学びの創造..... | 14 |
| 2 多様性を認める優しい心と、挑戦を続けるたくましい心の育成..... | 19 |
| 3 子どもや学校のチャレンジを応援する仕組みづくり..... | 22 |
| 4 学びを支える教職員、学校への支援..... | 24 |
| 基本方針3 すべてのライフステージで、楽しみながら学び、地域とつながる機会づくり... .. | 30 |
| 1 人と本、人と人をつなぎ、まちづくりの拠点となる可能性に満ちた図書館づくり..... | 30 |
| 2 文化・伝統・芸術を通じた、より豊かなまちの実現..... | 33 |
| 3 「健康」「生きがい」「仲間」「まち」をつくるスポーツの発展..... | 38 |
| 4 すべての人が楽しく安心して成長できる機会の確保..... | 42 |
| 教職員がいきいきと子どもと向き合う時間創造プログラムの取組状況..... | 45 |
| 生駒市教育大綱（第1次）の総括..... | 47 |
| 点検及び評価に関する意見..... | 48 |

令和2年度（令和元年度対象）活動点検評価報告書の作成にあたって

1 報告書の位置付け

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「法」という。）第26条第1項の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表するものです。

2 国等の動向

国では、改正法が平成27年4月に施行され、教育委員会制度が大きく変わりました。

また、学習指導要領が平成28年度末に改訂され、幼稚園は平成30年度、小学校は平成32年度、中学校は平成33年度から新たな学習指導要領に基づく教育課程や指導が実施されることとなり、「主体的・対話的で深い学び」や小学校高学年での「外国語科」の導入など、教育を取り巻く環境が大きく変わろうとしています。

生駒市では、平成28年6月に「生駒市教育大綱」を策定し、基本理念である「『遊ぼう』『学ぼう』『生きよう』みんなでいこまを楽しもう」の実現に向けた具体的な取組を「アクションプラン」として掲げ、毎年度PDCAサイクルに基づく効果的な進行管理を行うことにより、より実効的な施策・事業を推進しています。なお、本大綱は推進期間が4年間とされていたことから、社会情勢の変化やアクションプランにおける実績や成果等を踏まえて、令和2年6月に第2次生駒市教育大綱を策定しました。

さらに、教職員の長時間勤務が社会問題化しており、国においては、「学校における働き方改革に関する緊急対策の策定並びに学校における業務改善及び勤務時間管理等に係る取組の徹底について」といった通知を市町村教育委員会に通知するとともに、教職員の長時間勤務の解消に向けた取組を求めるとともに、「公立学校の教師の勤務時間に関するガイドライン」を策定し、市町村に対しても本

ガイドラインを参考に、勤務時間の上限を定めるよう求めています。

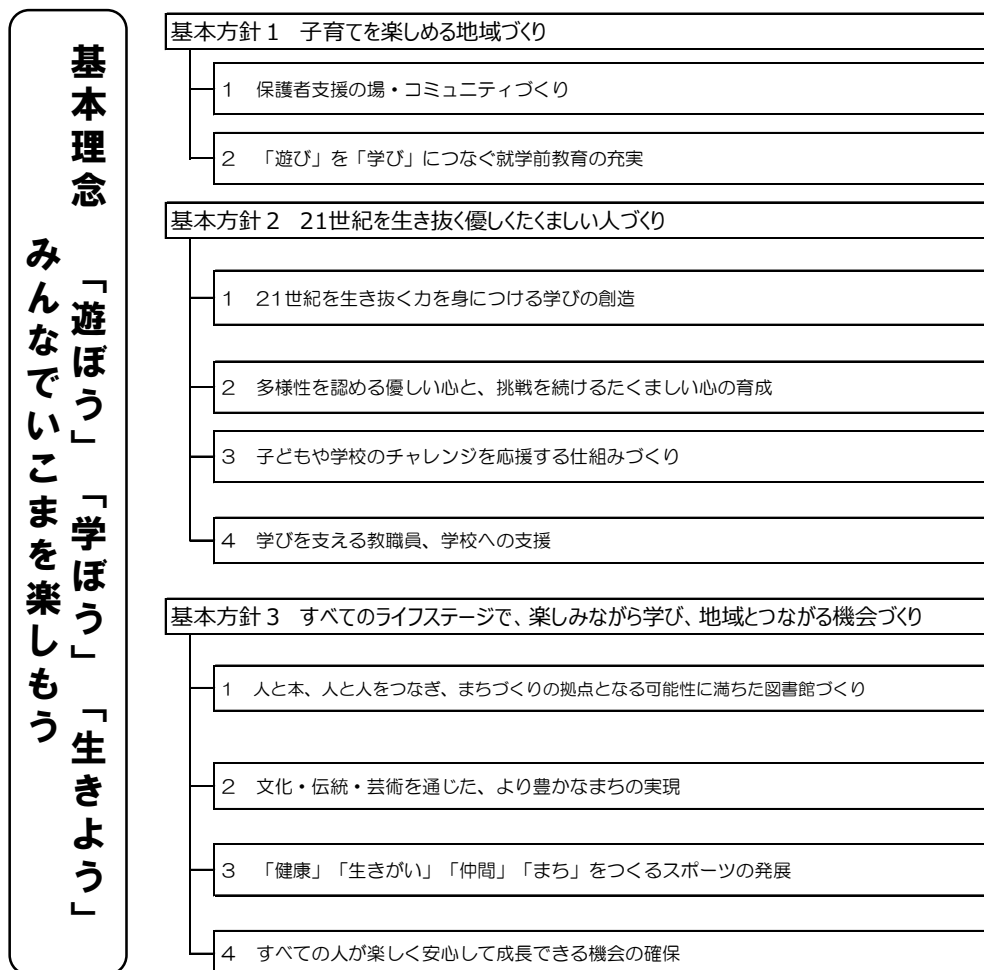
3 点検評価の概要

(1) 点検評価の対象

令和元年度は、前大綱の最終年度であったことから、前大綱の総括に加え、教育委員会が行っている活動を大きく下記の4つに分類し、それらを構成する各施策・事業について、点検評価を行います。

①教育委員会の活動状況

②生駒市教育大綱に基づく施策・事業



[生駒市教育大綱体系図]

③教職員がいきいきと子どもと向き合う時間創造プログラムに基づく取組

④生駒市教育大綱(第1次)の総括

(2) 点検評価の方法

各事業の取組の実績を踏まえ、達成状況を4段階の評価基準をもって評価します。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

評価にあたっては、アクションプラン掲載事業については目標に対する達成度を評価するとともに、アクションプランに掲載されていないその他事業や時間創造プログラムに掲載されている取組についても、当該事業等の実施によってどのような効果が得られたのかを明確にして評価します。

未達成の事業や取組が十分でない事業がある場合は、その要因と理由を明確にし、次年度以降の活動や事業等の実施に活かしていくこととします。

4 生駒市教育委員会活動点検評価委員の意見

点検及び評価にあたっては、法第26条第2項の規定により、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するため、生駒市教育委員会活動点検評価委員2名を委嘱し、教育委員会による自己評価に対し、同委員から意見が提出されています。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

教育委員会の活動状況

| 事業・取組名称 | 活動内容 | 実績・成果 | 評価 |
|--------------------------|---|--|---|
| 教育委員会会議の開催 | 定例会及び臨時会を開催し、議案及び報告案件を審議する。教育委員会が所管する予算、規則の制定改廃、人事案件等について議決、承認を行う。 | 【会議開催回数】 定例会：12回 臨時会：7回 【審議件数】 議案：37件 報告案件：30件 | A 昨年度同様に、毎月の定例会に加え、必要に応じて臨時会を開催し、規則の制定改廃や学校での事案等の各案件について、十分な審議の上、遅滞なく議決、承認を行った。 |
| 学校訪問、各施設視察、研究発表会・学校行事の参観 | 定期学校訪問を実施。 30校園を対象に訪問し、授業の参観及び学校運営全般にわたる視察を行った。 幼・小・中の卒業（園）式及び運動会に参列する。 | 年度計画のとおり学校訪問を実施し、学校経営、教育課程の運用、学習指導など学校教育全般にわたり、学校の実態に即して指導助言するとともに、各学校が主体的に、より充実した教育活動や特色ある学校経営が推進できるよう支援した。 | A 学校訪問及び行事等への参加を通じて、家庭や地域の実態や学校教育に関する課題を共有することができ、本市の教育の方向性を共に確認し、推進する機会を得ることができた。 |
| その他市教育委員会主催事業等への参加 | 成人式、市民体育大会及び市民体育祭、生駒市人権教育推進協議会総会及び研究大会等へ参加する。 | 教育委員会主催事業に参加した。 （成人式、市民体育大会及び市民体育祭、生駒市人権教育推進協議会総会及び研究大会等） | A 教育委員会主催事業等に参加することにより、市行政の全体像を把握し、現状を実感することができた。 |
| 教育委員としての資質・能力の向上 | 全国及び県で開催される研修会等へ参加し、教育委員としての資質・能力の向上を図る。 | 適宜開催される対象の研修に参加した。 （奈良県市町村教育委員研修会、奈良県市町村教育委員会連合会研修大会、市町村教育委員研究協議会等） | A 参加した研修会等の内容を教育委員同士で報告・共有することで、委員個人だけでなく、教育委員会全体のレベルアップにつなげることができた。 |
| 各種教育機関との連携 | 教育委員会が設置する附属機関や教育関係機関・団体等の活用・連携により、多種多様な教育課題に的確に対応する。 | 生駒市学校教育のあり方検討委員会から答申を受けるなど、附属機関の活用や教育関係団体との連携 | A 多種多様な教育課題に附属機関の設置などの確かな対応を行うとともに、教育関係機関との積極的な連携に努めることができた。 |

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
 A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
 B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
 C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

| 事業・取組 名称 | 活動内容 | 実績・成果 | 評価 |
|---------------------|---|---|--|
| 総合教育会議の開催（会議は市長が主催） | ICT教育や小中一貫教育をはじめとする教育環境の充実について、市長と協議を行う。 | 令和2年5月をもって推進期間満了を迎える教育大綱の見直しに向けた協議や、コミュニティ・スクールの実現に向けた市教委としての役割等に関する協議を行った。 | A 新たな教育大綱の策定に向けた協議を行うとともに、開かれた学校の実現に向けたコミュニティ・スクールに関する協議を行い、次年度以降の取組の方向性について共有することができた。 |
| 教育大綱アクションプランの策定 | 大綱の基本理念及び基本方針を実現するため、具体的な施策・事業を掲げたアクションプランを策定し、PDCAサイクルに基づく実効性のある取組を推進する。 | 教育委員会において、点検評価結果を踏まえた新たな事業の追加や既存事業の見直しを行い、H31年度のアクションプランを策定した。 | A アクションプランによって、PDCAサイクルに基づく施策・事業の推進を行うことができ、事業の重点化、実効性の担保などを図る一助となっている。 |

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

アクションプランにより、より実効性の高い施策・事業を展開することができるとともに、生駒市学校教育のあり方検討委員会からすべての諮問事項について答申を受けるなど、今後も将来の市教育行政発展に向けた取組を推進していく。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

教育大綱に基づく施策・事業

基本方針 1 子育てを楽しめる地域づくり

1 保護者支援の場・コミュニティづくり

【アクションプラン掲載事業】

| 事業・取組 名称 | 活動内容 | 実績・成果 | 評価 |
|-------------------|---|---|---|
| | | R1 年度の取組/設定目標 | |
| 子育て広場の充実 | 幼稚園・保育園で未就園児や保護者が遊び集える場を提供することで、子育ての不安を解消し、子育てを楽しむための取組を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・公立幼稚園 6 園 年間 12～16 回実施 ・公立保育園 4 園 年間 6～20 回実施 ・条件整備 ・ホームページやスマートフォンを活用し周知 ・園職員の資質向上や人員配置 ・内容の充実 | <p>幼：ツイッター等で周知することで参加数の増加にも結びついた。また、保護者同士のつながりの場にもなった。</p> <p>保：中保育園は工事のため、開催回数は少なくなったが、他園はツイッター等、周知方法を工夫した。</p> <p>幼保とも、2 月以降は新型コロナウイルス感染防止のため、中止とした。</p> |
| 地域の人材を活用した家庭教育の充実 | 家庭の教育力の低下や子育ての孤立化を防ぐため、家庭教育支援の充実に向け、地域の力を活用した支援体制を構築し、親子や保護者等を対象にした「学び」や交流の場の提供、地域の居場所づくり事業を実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事業実施回数：3 回 256 人参加 ・先進地視察研修の実施 ・地域を拠点にチームを活用した事業の拡充 | <p>家庭教育支援チーム「たけのこ」の取組として、小学校・幼稚園で地域の親子向けの交流イベントを開催し、親子の絆や保護者同士の交流を深める機会とした。</p> <p>今後は、情報発信を強化してチームの認知度を高めていくとともに、将来的には保護者からの相談等にも対応できるよう、人材確保と資質向上を図る。</p> |

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

| 事業・取組 名称 | 活動内容 | 実績・成果 | 評価 |
|-----------------------|---|--|--|
| | | R1年度の取組/設定目標 | |
| 子育ての孤立防止と地域でえ合う子育ての推進 | 親子の絆をつくるとともに、同世代のつながりをつくり子育ての孤立を防ぐための事業開催や相談業務を行う。また、子育て層の外出しやすい体制づくりを行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「大人も子どもも笑顔の子育て」のデザイン変更と増刷 ・健康課との協働によるプレママパパ講座の開催5回 (新型コロナウイルス感染拡大防止のため1回中止) | <ul style="list-style-type: none"> ・事業周知のため、カラー印刷による保存版を作成し、園や公共施設を通じて子育て層に届きやすいよう工夫した。 A 健康課のプレママパパ講座の一部を協働で実施し、妊娠期からの切れ目のないサポートを行った。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・ひろば事業や地域子育て支援拠点の周知拡大 ・健康課との事業連携 | |
| 子育ての孤立防止と地域でえ合う子育ての推進 | 親子の絆をつくるとともに、同世代のつながりをつくり子育ての孤立を防ぐための事業開催や相談業務を行う。また、子育て層の外出しやすい体制づくりを行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 【登録数】 ママサポーター：2人 登録者数：293人 ・交流会の実施5回 (内1回は市の主催イベントスタイリングウィークのイベントとして実施) | <ul style="list-style-type: none"> A 定期的な事業実施により、子育てシェアの認知度が上り、繋がりもでき、登録者数の増加へと繋がっている。また、職員の子育てシェア勉強会を実施し、情報発信に努めた。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な地域交流会を開催しつつ、地元ママサポーターによる子育てシェアの拡大 | |
| 子育ての孤立防止と地域でえ合う子育ての推進 | 親子の絆をつくるとともに、同世代のつながりをつくり子育ての孤立を防ぐための事業開催や相談業務を行う。また、子育て層の外出しやすい体制づくりを行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 赤ちゃんの駅登録数：61施設 | <ul style="list-style-type: none"> B 目標値には達していないが、新たに2つの商業施設が追加となったことで、環境整備の向上を図り、市HPなどに掲載することで、市民への周知を行った。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんの駅の拡大/赤ちゃんの駅の登録数：65箇所 | |
| 子育ての孤立防止と地域でえ合う子育ての推進 | 父親の育児への取組を促すため、子育て支援や様々な行事に関心を持ってもらえるような事業を実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> 【開催回数】 3期各4回 計12回 参加組数：16組 (対象：第1子と父母) | <ul style="list-style-type: none"> B 計画通り土曜の午前中に開催したが、参加者が減少したため、次年度は開催曜日と時間を工夫して実施する。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・パパセミナーの開催回数の増加/パパセミナー開催回数：12回 | |

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

| 事業・取組 名称 | 活動内容 | 実績・成果 | 評価 |
|--------------------------|---|--|---|
| | | R1 年度の取組/設定目標 | |
| 子育ての孤立化の防止と地域で支え合う子育ての推進 | 父親の育児への取組を促すため、子育て支援や様々な行事に関心を持ってもらえるような事業を実施する。 | <p>【開催回数・参加者数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パパひろば 毎月1回計11回 (新型コロナウイルス感染拡大防止のため1回り中止) 参加者数:119組 ・夫婦できく前向き子育てセミナー 参加者数:15組 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・パパひろばの開催 ・トリプルPを1日で受講できるセミナー形式として開催 | <p>A</p> <p>受講者の声を基に、夫婦できく前向き子育てセミナーを開催した。夫婦が同じ知識を共有することで、家庭での子育てを考えるきっかけ作りとなった。</p> |
| 待機児童解消による保護者支援の環境整備 | 平成30年度中の待機児童の解消に向け、小規模保育所の新設などに取り組み、子育てしやすい環境を整備する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・31年4月に小規模園「きたやまと保育園」が開園 ・いこまこども園の増築により、31年4月から定員増 ・元年5月より保育コンシェルジュを配置 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・駅前空きスペース等を領した小規模保育事業の推進 ・既存民間保育所の増築も検討/待機児童数:0人 | <p>B</p> <p>小規模園の開園等により、受入れ数は増加したが、保育士不足等により待機児童解消には至っていない。希望園集中については、コンシェルジュ配置により、きめ細やかに対応できた。</p> |
| 学童保育の充実 | 学童保育所の保育環境の改善を図るため、児童一人あたりの有効面積の狭い学童の分割工事を行う。 | <p>鹿ノ台、真弓小学校で、教室を借用し、床の改修等の簡易な工事を行った。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・一定基準の児童数を超える学童保育の分割 | <p>A</p> <p>教室を借用し、一時使用することにより、令和2年度から一人あたりの基準面積を確保できるようになった。</p> |

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
 A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
 B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
 C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【その他事業】

| 事業・取組名称 | 活動内容 | 実績・成果 | 評価 |
|---------|-------------------------------------|---|---|
| | | 設定目標 | |
| 自立支援事業 | ひとり親家庭の生活の安定を図るため、経済的支援のほか、自立支援を行う。 | 自立支援教育訓練給付事業 4名 高等職業訓練促進費等給付事業訓練促進費 10名 修了支援給付金 4名 — | A 児童扶養手当の現況届等で事業の周知を図った。自立支援教育訓練給付金については昨年度の1名から4名へ増加した。 |

【評価による課題】

妊娠期から子育て期にわたり切れ目のない子育て支援事業を進め、保護者が子どもに上手に関わることができるようになり、児童虐待防止にも繋がっていく事業を展開していく。

待機児童解消による保護者支援の環境整備については、待機児童解消に向け小規模保育所などの施設整備と合わせて、保育士確保に取り組む必要がある。

自立支援事業については、自立支援教育訓練給付金事業について4名に増加したが、引き続ききめ細かく周知を図る必要がある。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

保育士確保のために、潜在保育士向けの相談会に加え、見学ツアー・職場体験を実施した。今後もより保育現場を知ってもらうために、内容を工夫しながら継続して実施していく必要がある。また、保育士の給与改善に向けた取組も必要と考える。

| |
|--------------------------------|
| 【評価基準】 |
| S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。 |
| A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した |
| B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない |
| C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない |

< 参考データ >

生駒市学童保育運営協議会が運営する学童施設の在籍児童数（R1.10.1時点）

| 小学校名 | 学童名 | 児童数 | 小学校名 | 学童名 | 児童数 |
|-------|---------|-----|--------|---------|-------|
| 生駒北小 | 生駒北学童 | 38 | 桜ヶ丘小 | 桜ヶ丘1学童 | 49 |
| 鹿ノ台小 | 鹿ノ台1学童 | 73 | | 桜ヶ丘2学童 | 63 |
| | 鹿ノ台2学童 | 64 | | 桜ヶ丘3学童 | 46 |
| 真弓小 | 真弓1学童 | 69 | 生駒小 | 生駒1学童 | 51 |
| | 真弓2学童 | 75 | | 生駒2学童 | 63 |
| あすか野小 | あすか野1学童 | 68 | | 生駒3学童 | 57 |
| | あすか野2学童 | 71 | 生駒東小 | 生駒東1学童 | 63 |
| | あすか野3学童 | 70 | | 生駒東2学童 | 62 |
| | あすか野4学童 | 74 | 壱分小 | 壱分1学童 | 52 |
| 生駒台小 | 生駒台1学童 | 67 | | 壱分2学童 | 43 |
| | 生駒台2学童 | 70 | | 壱分3学童 | 43 |
| 俵口小 | 俵口1学童 | 54 | 生駒南小 | 生駒南A学童 | 47 |
| | 俵口2学童 | 51 | | 生駒南B学童 | 46 |
| | | | 生駒南第二小 | 生駒南第二学童 | 36 |
| 計 | | | | | 1,565 |

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

2 「遊び」を「学び」につなぐ就学前教育の充実

【アクションプラン掲載事業】

| 事業・取組 名称 | 活動内容 | 実績・成果 | 評価 |
|---------------------------|---|--|---|
| | | R1年度の取組/設定目標 | |
| 幼児期の教育と小学校教育の育ちをつなぐ幼小接続事業 | 保育所と幼稚園の学びを小学校教育に連続性・一貫性のある教育としてつなぐため、5歳児と小学校1年生や5年生との交流を進める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保幼小接続推進会議を年間3回開催し、年間を通じて交流を実施した。 ・年度末には校区ごとの取組を成果報告集としてまとめ、各校園に配布した。 | A 推進会議を定期的にもつことにより、計画的に交流し、校区内職員間の関係性が深まった。また、交流回数や、私立園と公立園、私立園と学校との交流の機会も、前年度より増加した。今後は職員同士で参観の機会をもつなど、お互いを知る機会を計画していく。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・保幼小接続推進会議設置による全学的な実践の推進と検証 ・生駒市接続カリキュラムの活用 | |
| 学校教育のあり方に関する検討事業 | 幼稚園のこども園化の実現性の検討や園規模、通園区域の適正化の検討を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育のあり方検討委員会の就学前教育・保育部会において、幼稚園の施設規模やこども園化について検討した。 | A 学校教育のあり方検討委員会から、今後の幼稚園のあり方についての答申を受けた。今後はこの答申内容も踏まえ、幼稚園のこども園化を含めた施設規模の適正化について検討する。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・検討委員会からの答申 ・検証結果、答申を踏まえた具体的取組の検討 | |
| 就学前教育・保育のあり方に関する基本方針の策定 | 多様化する幼児教育に関する方針を策定し、教育環境をソフト、ハードの両面から整備する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育のあり方検討委員会の就学前教育・保育部会において、幼稚園の施設規模やこども園化について検討した。 | A 学校教育のあり方検討委員会から、今後の幼稚園のあり方についての答申を受けた。今後はこの答申内容も踏まえ、幼稚園のこども園化を含めた施設規模の適正化について検討する。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・環境整備 ・具体的取組（施設改修、教育内容の検討、研修等）の着手 | |

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【その他事業】

| 事業・取組名称 | 活動内容 | 実績・成果 | 評価 |
|-------------------|--|---|--|
| | | 設定目標 | |
| 市立幼稚園における預かり保育の実施 | 子育て支援の一環として、預かり保育・長時間預かり保育を実施する。 | 預かり保育利用者数 [市内6幼稚園]のべ9,038人 [認定こども園生駒幼稚園、南こども園1号認定児] ・早朝・延長預かり保育のべ1,648人 ・通常預かり保育のべ3,888人 - | A こども園での1号認定児の早朝・延長預かり保育利用者が、前年の約2倍に増加している。年間の総利用者数は、ほぼ横ばいとなっている。 |
| 幼稚園就園奨励費補助事業 | 保護者の経済的負担を軽減するため、私立幼稚園において就園奨励費補助金を交付する。 | 交付者数 409人 補助金額 20,009,000円 - | A 各私立幼稚園を通じて案内を行い、就園費補助金を交付することができた。 |
| 生駒幼稚園こども園移行事業 | 子育て環境の充実を図るため、生駒幼稚園を幼稚園型認定こども園に移行する。 | 預かり保育利用者(1号認定児) 3,538人(延べ) - | A 7時30分から18時30分までの預かり保育を実施し、利用人数が1.7倍近く増加した。終日就労の保護者ニーズに対応することができた。 |
| 特別支援教育の充実 | 4、5歳児クラスに特別支援介助講師を配置する。 | 加配申請児数 67名 - | A 特別支援加配を必要とする園児3名に対して1名の加配講師を配置し、きめ細かい保育にあたることができた。 |
| 幼稚園・保育所教員研修の実施 | 更なる就学前教育環境の充実を図るため、職員の資質向上につながる研修を実施する。 | 新規採用職員研修 中堅教員等職員研修 常勤講師・保育士合同研修 幼稚園・保育園交流学習会 年間各4回 - | A 年間計画に基づき進めることができた。幼保が共通の場で学ぶ機会がもてたことは資質向上とともに、交流にも結びついた。 |
| 市内私立保育園施設整備助成 | 定員の増等に伴う市内私立保育所の施設整備に対する補助を行う。 | 小規模認可保育所「わらべ学園」の新設に向けた補助金の交付を確実に行った。 - | B 待機児童園児数の減少に向けて、一定の役割を果たすことができた。 |

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価による課題】

保育施設の新設などに対応するため補助金を交付することはできたが、依然として保育士不足は深刻な問題であり、引き続き保育士確保につながる保育士の給与改善に係る補助金の充実を図る必要がある。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

施設整備に係る補助金を継続しつつ、保育士の給与改善に係る補助金の充実に努める。

<参考データ>

市立幼稚園園児数（R1.5.1時点）

| 3歳児 | 4歳児 | 5歳児 | 合計 |
|-----|-----|-----|-----|
| 277 | 292 | 360 | 929 |

※認定こども園生駒幼稚園の2認定児を含む。

市立保育所園児数（R1.5.1時点）

| 0歳児 | 1歳児 | 2歳児 | 3歳児 | 4歳児 | 5歳児 | 合計 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 24 | 57 | 105 | 125 | 127 | 130 | 568 |

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

基本方針2 21世紀を生き抜く優しくたくましい人づくり

1 21世紀を生き抜く力を身につける学びの創造

【アクションプラン掲載事業】

| 事業・取組 名称 | 活動内容 | 実績・成果 | 評価 |
|-----------------------------|--|---|---|
| | | R1年度の取組/設定目標 | |
| 学校教育のあり方に関する検討事業 | 新学習指導要領等の確実な実施に向けた学校教育の質の向上、学校・教職員の支援につながる具体的な取組を検討する。 | <p>[教育の質の向上] 教育環境向上部会を10回開催。 ・教員と保護者を対象としたワークショップを開催。 ・「新学習指導要領を踏まえた教育環境の充実に向けた取組について」を答申。</p> <p>[学校規模適正化] 学校規模適正化部会を9回開催し、小中一貫教育の方向性と本方向性を踏まえた今後の小・中学校のあり方について答申を受けた。</p> | A 諮問事項に関する各部会や教育の質の向上についてはワークショップを開催するなどし、教育課題の整理、具体的な取組についての検討を行い、諮問事項に対する答申を受けることができた。 |
| | 学校教育の質の向上の観点から、市における小中一貫教育の方向性も踏まえた学校の規模・配置等についての検討を行う。 | <p>・検討委員会からの答申 ・検証結果、答申を踏まえた具体的取組の検討</p> | |
| 問題発見力や他者と協働するコミュニケーション能力の育成 | 21世紀を生き抜く力として、授業において、日常の疑問を発見する力やコミュニケーション能力の育成を図るとともに、必要となる教職員の能力育成のための研修を強化する。 | <p>・小中学校の教職員を対象に「主体的・対話的で深い学び」について研修会を実施。</p> <p>・教職員のファシリテーション能力の育成のための研修開催 ・各校への授業におけるアクティブ・ラーニングの活用を啓発、公開授業の推進</p> | A 教職員対象に教育委員会主催及び各学校主催の「主体的・対話的で深い学び」についての研修会を実施した。 |

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

| 事業・取組 名称 | 活動内容 | 実績・成果 | | 評価 |
|------------------|---|---|---|--|
| | | R1 年度の取組/設定目標 | | |
| 読書活動・学校図書館の充実 | 現在、小中学校すべてに学校司書を配置しており、一定の効果が得られているが、さらに読書を通じて豊かな人間性を育むため、学校司書の配置を拡充する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校に週 3 日学校司書を配置。 ・学校司書を全小中学校に週 3 日配置 | A | <p>学校司書と司書教諭が連携し、図書館の環境整備や図書に関するイベントの開催により、児童生徒の読書意欲を向上することができた。</p> |
| ICT 機器を活用した教育の推進 | タブレット端末を小中学校と幼稚園、保育所に導入し、授業等で活用することで授業及び保育の質を充実させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ICT教育推進委員会を 2 回開催し、ICT機器を活用した授業の実施状況を把握するとともに、各校の活用方法について情報交換をした。 ・プログラミング教育に関する教員研修を 4 回実施。 ・(小中)プログラミング教育に関する教員研修の実施 ・ICT 機器を活用した授業の研究 ・ICT 教育推進委員会の開催 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・ICT教育推進委員会を開催し、ICT機器を活用した授業の実施状況を把握するとともに、各校の活用方法について情報交換をすることができた。 ・プログラミング教育に関する教員研修を夏期研修として 2 回壱分小学校と鹿ノ台小学校でそれぞれ 1 回ずつ実施することができた。 |
| ICT 機器を活用した教育の推進 | タブレット端末を小中学校と幼稚園、保育所に導入し、授業等で活用することで授業及び保育の質を充実させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 撮影した動画を大きく見せて教材として使用したり、園児の活動の様子を動画で撮影し、職員研修時に活用等行った。 ・(幼保)Wi-Fi 環境の整備 ・幼稚園で園児の活動について、懇談等で試験活用 ・保育所での試験活用 | B | <p>Wi-Fi 環境の整備が進まず、保育の中では前年度同様にしか活用できなかった。また、保育所での活用方法の検討はあまり進めることができなかった。</p> |
| スマートフォン適正利用推進事業 | スマートフォンの利用にあたっての注意点や問題点等を周知・指導し、児童生徒のスマートフォンの適正な利用を促す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「いこまスマホ宣言 2016」を基に、中学校では、生徒会が中心となり学校独自のルールを作成。小学校では、出前授業等でルールについて学習し、適正な利用を促した。 ・学校での実践 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会が中心となり学校独自のルールを作成することができた。小学校では、出前授業等を通して適正な利用について児童、保護者に周知した。 |

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

| 事業・取組 名称 | 活動内容 | 実績・成果 | 評価 |
|---------------------|---|---|--|
| | | R1 年度の取組/設定目標 | |
| グローバル時代に対応した英語教育の推進 | ALT を小学校 1・2 年生にも配置し、小学校すべての学年で英語活動に取り組むことにより、英語の基礎的な力を身につけるとともに、コミュニケーション能力の育成を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・年間小学校 1・2 年生で 10 時間程度、小学校 3・4 年生で 35 時間、小学校 5・6 年生で 50 時間英語活動を実施。 ・年間小学校 1・2 年生で 10 時間程度、小学校 3・4 年生で 35 時間、小学校 5・6 年生で 50 時間英語活動を実施（ALT、わくわくイングリッシュサポーターを配置） | A ALT、わくわくイングリッシュサポーターを配置し、年間に小学校 1・2 年生で 10 時間程度、3・4 年生で 35 時間、小学校 5・6 年生で 50 時間英語活動を実施した。 |
| グローバル時代に対応した英語教育の推進 | 小中学校における英語活動、英語教育の学年目標を策定し、義務教育 9 年間の体系的な英語教育を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・英語教育推進委員会を年間 2 回開催。 ・ALT コーディネーターを配置し、各校の教員や ALT の指導力向上のための研修を行った。 ・英語教育推進委員会の設置 ・小学 1・2 年生用の教材の配布 ・ALT コーディネーターの配置（週 4 日） ・指導計画の検証 ・生駒市英語教育カリキュラムの活用/英語教育推進委員会の開催回数：5 回 | A ・英語教育推進委員会を年間 2 回開催し、生駒市英語カリキュラムの確認、英語教育の現状と課題、ALT との指導方法等を確認し、深めることができた。また、新学習指導要領に向け、各校の現状について情報交換を行い、各校の環境向上につなげた。 |

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
 A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
 B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
 C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【その他事業】

| 事業・取組名称 | 活動内容 | 実績・成果 | | 評価 |
|-----------------------------|--|--|---|---|
| | | 設定目標 | | |
| 問題発見力や他者と協働するコミュニケーション能力の育成 | 日常の疑問を発見する力やコミュニケーション能力の育成を図るため、教職員のファシリテーション能力育成のための研修開催、授業におけるアクティブ・ラーニングの活用を啓発、公開授業を実施する。 | ・小中学校の教職員を対象に「主体的・対話的で深い学び」を育む研修を実施 | - | A 教職員対象に教育委員会主催及び各学校主催の「主体的・対話的で深い学び」についての研修会を実施し、教職員の資質の向上を図った。 |
| 小学校1年生30人程度学級の実施 | 本市独自の取組として、学校教育の充実を図るため、小学校1年生30人程度学級を実施する。 | 全小学校において30人程度学級を実施した。 | - | A 小学校2年生については、県において35人学級を実施することとなったが、1年生については引き続き全ての小学校において達成することができた。 |
| 伝え合う力育成事業 | 豊かな人間性を育むため、読書活動を推進し、各校に学校司書を配置する。 | 全ての小中学校に週3日、学校司書を配置した。 | - | A 学校司書と司書教諭が連携し、図書館の環境整備や図書に関するイベントの開催により、児童生徒の読書意欲を向上することができた。 |
| 学校創造推進事業 | 保護者や地域住民との連携のもとで様々な取組を実施し、信頼され、開かれた学校づくりを進める。 | 地域の方々との交流の機会を増やすなど、各校で特色のある教育活動を実施。 実施回数:1,160回 | - | A 特色のある教育活動を推進することにより、信頼され、開かれた学校づくりを進めることができた。 |
| 奈良先端科学技術大学院大学と連携した授業の実施 | 中学校を対象に奈良先端科学技術大学院大学の講師等を招き、授業を行うことで学ぶことの興味・関心を高める。 | 特別授業を3校、出前授業を5校で実施 | - | A 理科離れが進む中、学校で体験できない最先端の科学に触れることができた。 |

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価による課題】

ICT教育は、GIGAスクール構想により飛躍的に進歩していくこと期待できる。環境整備と共に、指導方法の開発も必要となってくる。また、英語教育の推進では「生駒市英語教育のカリキュラム」に則った取組の推進について検証を進めながら、学級担任とALTが連携した授業を推進していくことが大切である。そして、新学習指導要領を踏まえ、子どもたちが主体的・対話的で深い学びができるよう、教員一人一人の授業力の向上が必要である。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

ICT教育については、GIGAスクール構想の早期実現により一人一台のタブレット端末を使った授業が可能となる。今後、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、タブレット端末を活用した教育活動の開発を進めていく。同時に「21世紀を生き抜く力を身に付ける学びの創造」に向けた取組として、小学校だけでなく中学校においてもALTとのコミュニケーションを図りながら進めていく英語活動を充実させるため、授業研究を通して研修を深め、さらに、読書活動の推進、心の教育の充実を図り、特色のある教育活動を推進する。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

2 多様性を認める優しい心と、挑戦を続けるたくましい心の育成

【アクションプラン掲載事業】

| 事業・取組 名称 | 活動内容 | 実績・成果 | | 評価 |
|-------------------------|--|--|--|--|
| | | R1年度の取組/設定目標 | | |
| チャレンジ！やさしくたくましいこまっ子キャンプ | 既存の自然体験学習のメニューとして防災キャンプを加え、児童の防災意識を高め、命を守ることの大切さを再認識し、災害発生時に自分の命を守る行動を身につける。 | 10校で防災プログラムを実施。 | ・各小中学校の判断に基づくいこまっ子キャンプの実施 | A 自然と向き合った防災体験活動を取り入れることで、児童生徒の「生きる力」を育むことができた。 |
| いじめ防止等の施策推進 | 平成29年3月に策定した「生駒市いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ防止、早期発見につながる取組を推進する。 | ・生駒市いじめ問題対策連絡協議会を2回開催。 ・「いじめ防止月間」の取組を集約し、市のHPに掲載。 | ・生駒市いじめ問題対策連絡協議会の設置・開催 ・小中学校で「いじめ防止基本方針」をもとに、いじめ防止対策の推進 | A 平成29年2月に策定した「生駒市いじめ防止基本方針」に則り、いじめ防止に向けた環境整備を推進した。 |
| 特別支援教育の充実 | 特別支援学級在籍児童生徒の学習支援、機能回復のための環境及び体制の充実を図る。 | ・小中学校にタブレット端末を配備/タブレット端末の配備 累計数：84台 | ・小学校にタブレット端末を配備/タブレット端末の配備 累計数：84台 | A 予定どおり目標台数を配備し、特別支援学級において効果的に活用することができた。 |

【その他事業】

| 事業・取組 名称 | 活動内容 | 実績・成果 | | 評価 |
|--------------|------------------------------------|--------------------------------|---|---|
| | | 設定目標 | | |
| 特別支援教育支援員の配置 | 介助や指導補助、学習補助等を行う特別支援教育支援員を各校に配置する。 | 特別支援教育支援員を平均で各校週6日分配置することができた。 | — | A 各校園に支援員を配置し、きめ細かな教育支援をすることが可能となった。 |

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

| 事業・取組 名称 | 活動内容 | 実績・成果 | | 評価 |
|---|--|---|---|--|
| | | 設定目標 | | |
| スクールカ ウンセラー、 スクールソ ーシャルワ ーカー、スク ールアドバ イザーズの 活用 | スクールカウンセラ ー等を活用し、いじ め問題等の早期解決 や教育相談などの体 制充実を図る。 | 中学校で週に1回、 小学校で月に1回市 費でカウンセラーを 配置(県費は中学校 に月2回) | - | A 児童生徒、教員 及び保護者に対 する指導・助言・ 支援を行うことを 通じて、学校のカ ウンセリング機能 や教育相談体制 の充実を図れた。 |
| 教育相談の 実施 | 教育相談員やスク ールカウンセラーな どの専門家を活用し、 教育相談を行える環 境を整備する。 | ・5名の相談員とカウ ンセラー等で教育相 談を実施。相談件 数:1,368件 | - | A 不登校に関する 相談が1,171件 と全体の約86% あり、不登校初期 の段階での適切 な対応により、長 期欠席の防止に 効果をあげてい る。 |
| 特別支援教 育に関する 教育相談の 実施 | 特別な支援を要する 就学前の幼児を対象 とした就学前教育相 談や特別な支援を要 する児童生徒及びそ の保護者や教員に対 して教育相談を行 う。 | 就学前教育相談及び 特別支援教育相談を 182件実施。 | - | A 専門知識を有す る者に相談を受 けることができ る体制を整備で きた。また、発達 障害を早期発見 することができ、 個別の教育支援 や療育につなげ ることができた。 |
| ことばの教 室・通級指導 教室エルの 運営 | 読み書きやコミュニ ケーションなどで困 っている幼児や児童 を支援するために設 置していることばの 教室・通級指導教室 を運営する。 | ことばの教室・通級 指導教室エルへの通 級者数は184名であ った。 | - | A 幼児、児童生徒の 障害の重複化や 多様化、一人一 人の教育的ニー ズに応じた教育 支援を実施する ことができた。 |
| 適応指導教 室の運営 | 心理的あるいは情緒 的な原因等により登 校できない児童生徒 を対象に設置してい る適応指導教室を運 営し、学校生活への 復帰を支援する。 | 心理的あるいは情緒 的な原因等により登 校できない児童生徒 に支援を実施。 | - | A 心理的あるいは 情緒的な原因等 により登校でき ない児童生徒に 学校生活への復 帰支援を実施す ることができた。 |

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価による課題】

いじめ防止等に向けた学校づくりを進める中で、教員が児童生徒の出す信号に対して素早く適切に対応できることが必要となる。また、特別教育支援員を各校に配置しているが、支援を必要とする児童生徒が増加しているため、特別支援教育支援員や学びのサポーターによる支援体制の強化と共に、発達障害の特性を教員で共有し合い、通常の授業の中でも支援の行き届いたユニバーサルデザインの授業について研修していく必要がある。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

いじめ防止等に向けた学校づくりを進めるとともに、6月を「いじめ防止月間」とし、取組を強化する。特別支援教育相談、就学前教育相談による個別相談の充実を図り、発達障害等、特別な支援を要する児童生徒に対し、特別支援教育支援員や学びのサポーターによる学習や活動の支援を実施し、児童生徒、保護者、指導者に対する支援・相談体制を推進する。また、特別支援教育に関して、個別の支援計画作成の研修やユニバーサルデザインの授業に関する研修を実施し、学校での児童生徒への合理的配慮や支援体制の充実に向けた取組を進める。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

3 子どもや学校のチャレンジを応援する仕組みづくり

【アクションプラン掲載事業】

| 事業・取組 名称 | 活動内容 | 実績・成果 | 評価 |
|------------------------|---|---|---|
| | | R1年度の取組/設定目標 | |
| 生駒子ども チャレンジ 補助事業 | 学校の各種コンテスト等に挑戦するために必要となる経費等を補助する制度を創設し、児童生徒の創造性を培い、達成感を味わうとともに、自己肯定感を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生駒中学校のロボットコンテストへの参加、生駒北小学校の書道作品展への応募を補助。 ・検証結果を踏まえた改善策等の対応 | <p>A</p> <p>児童生徒に、科学や文化的コンテストへの参加を奨励することにより、児童生徒の創造性を培い、達成感を味わわせ、自己肯定感の高まりにつながった。</p> |
| 部活動支援 事業 | 中学校において、専門的な技術指導力を備えた指導者が不在の部に対し、地域の適切な人材を外部指導者として派遣し、部活動を充実させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・バレーボール、ソフトボール、陸上、バスケットボール、ハンドボール、柔道、ハンドボール、テニス、吹奏楽、茶道など、専門的な技術指導力を備えた外部指導者を7校に派遣。 ・中学校に外部指導者を配置/指導者配置数：8校 | <p>A</p> <p>・専門的な技術指導力を備えた指導者が不在で、学校長が必要と認められた全ての部活動に対して、外部指導者を派遣できた。</p> |
| あこがれい こまびと講 演事業 | 地域出身の文化人、スポーツ関係者、事業者等、社会で活躍されている方の講演等を通して、児童生徒が郷土愛を持ち、自分の夢に向かって生き生きと活動し、自己有用感を持って将来社会で活躍できる人材を育成する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生駒小学校で琴と尺八の鑑賞および体験学習会を実施。 ・小中学校で地域出身者の講演会を実施/講演会実施校数：2校 | <p>B</p> <p>社会で活躍している卒業生や地域の方々を講師に招き、講演会を実施することで、郷土に誇りを持つことができた。</p> |

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【その他事業】

| 事業・取組 名称 | 活動内容 | 実績・成果 | 評価 |
|-----------------------------------|---|-----------------------------|--|
| | | 設定目標 | |
| 「エコキッズいこま」 「エコスクール」「エコボーナス」の実施 | 光熱水費の削減量に応じて次年度の配当額を増額する「エコボーナス」の実施など、環境教育を通じて学校の取組を支援する仕組みを推進する。 | ・全小学校でエコキッズいこまを実施。 - | A 環境問題に専門的な知見を持つNPOの出前授業を行うことで、環境問題を身近に感じ、日常生活に結び付けることができた。 |

【評価による課題】

平成26年3月に生駒市が環境モデル都市に選出されて以来、全小中学校で環境教育を推進しているために、各校での取組が一定の成果を上げ続けている。また、地域の外部指導者の指導により、専門的な知識を学びつつ郷土への愛着を感じるきっかけとなっている。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

部活動への外部指導者の派遣や地域出身者の講演会を実施し、児童生徒が未来への夢を創造できる取組を今後も推進していく。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

4 学びを支える教職員、学校への支援

【アクションプラン掲載事業】

| 事業・取組 名称 | 活動内容 | 実績・成果 | | 評価 |
|---|---|--|--|---|
| | | R1年度の取組/設定目標 | | |
| 教職員がい いきいきと子 どもと向き 合う時間創 造プログラ ム | 教職員が健康でいき いきとやりがいをも って働ける環境の整 備を行い、教職員が 授業や教材研究等に 集中し、ゆとりをも って子どもたちと向 き合う時間の拡充を 図る。 | プログラムに掲げら れた取組を着実に実 施した。 ・教職員がいいきと 子どもと向き合う時 間創造プログラムの 実施 | | A プログラムに掲げ られた取組を着 実に実施したが、 今後の引き続き 取組を進めるに 当たっては、予算 確保に努めていく 必要がある。 |
| 学校教育の あり方に関 する検討事 業 | 新学習指導要領等の 確実な実施に向けた 学校教育の質の向 上、学校・教職員の 支援につながる具 体的な取組を検討す る。 | [教育の質の向上] 教育環境向上部会を 10回開催。 ・教員と保護者を対 象としたワークショ ップを開催。 ・「新学習指導要領を 踏まえた教育環境 の充実に向けた取 組について」を答 申。 [学校規模適正化] 学校規模適正化部会 を9回開催し、小中 一貫教育の方向性と 本方向性を踏まえた 今後の小・中学校の あり方について答申 を受けた。 | | A 諮問事項に関す る各部会や教育 の質の向上につ いてはワークショ ップを開催するな どし、教育課題の 整理、具体的な取 組についての検 討を行い、諮問事 項に対する答申 を受けることがで きた。 |
| | 学校教育の質の向上 の観点から、市にお ける小中一貫教育の 方向性も踏まえた学 校の規模・配置等 についての検討を行 う。 | ・検討委員会からの 答申 ・検証結果、答申を 踏まえた具体的取 組の検討 | | |

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

| 事業・取組 名称 | 活動内容 | 実績・成果 | |
|-------------------------|---|--|--|
| | | R1年度の取組/設定目標 | 評価 |
| 生駒市教育 力活性化プ ロジェクト | 教職員研修と指導・ 相談体制の充実によ って、教職員の資質 を向上し、新たな指 導方法等に対応でき る教職員の育成を図 る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・指導主事、教育指 導員を学校からの 要請に応じて派遣。 ・ALTコーディネー ターを配置し、ALT と学校との連携を深 めた。 ・ICT教育推進委員 会を2回開催。 ・生駒市小学校教育 振興会及び生駒市 中学校強化等研究 会の活動への支援 の実施。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校に指導主 事、教育指導 員、ALTコーデ ィネーターを派 遣することによ り、授業の改善 等、教職員の指 導力の向上を図 ることができた。 ・ICT教育推進 委員会を開催 し、ICT機器を 活用した授業の 実施状況を把握 すると共に、今 後の方向性につ いて、情報交換 を実施すること ができた。 ・生駒市小学校教 育振興会、生駒 市中学校教科等 研究会の各部会 で、次期学習指 導要領の実施に 向けた取組に対 して、支援を実 施することがで きた。 |
| 学校施設老 朽化改善事 業 | 多くの学校施設は建 設から概ね40年程 度経過し、老朽化が 進んでいることから、 計画的に改修を行 うことで、財政負 担を平準化するため、 (仮称)「学校施 設管理計画」を策定 し、計画的に改修す る。 | <p>あり方検討事業の答 申を得るとともに、計 画内容に関して他部 署との連携を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「市の学校教育のあ り方検討事業」を踏 まえた計画内容の 検討/老朽改修実施 校累計数:2校 | <p>あり方検討事業 の答申を得たこと から、検討を進め ていく過程で、計 画的な改修に向 けた取組を進め ていく。</p> |

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

| 事業・取組 名称 | 活動内容 | 実績・成果 | 評価 |
|-----------------------|--|--|---|
| | | R1 年度の取組/設定目標 | |
| 生駒北小中 一貫校関連 事業 | 生駒北小中学校の校舎整備をはじめ、小中連携事業等の実施、検証を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校 9 年間の教育課程を整理し、幾つかの教科で教員が系統性を意識した上で乗り入れ授業を実施。 ・学校行事での小中交流によって、児童生徒の幅広い人間関係を育成。 ・検証結果を踏まえた取組の検討 | A H28 年度から始まっている小中一貫教育の成果と課題を整理し、「生駒市学校教育のあり方検討委員会」の中で検証等を実施し、「生駒市における小中一貫教育の方向性」を決定した。 |
| 小中学校校舎トイレ改修事業 | 老朽化が顕著である全中学校の校舎のトイレ改修を順次行う（便器洋式化、床乾式化）。 | <p>中学校 1 校の一部について改修を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事/トイレ改修実施校累計数：3 校 | A トイレ改修工事は学校環境改善において、非常に重要ではなるが、国施策等により急遽異なる工事等が必要となることから、ユン線順位を踏まえて順次改修工事を実施していくことが必要である。 |
| 小中学校エアコン整備事業 | 夏場の教室環境の改善を図るため、中学校の教室にエアコンを整備する。 | <p>7 月 1 日からの使用を開始した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事 ・7 月 1 日からの使用開始 | A 工事期間が限られている中、学校との連携も密にし、予定どおり使用を開始することができた。 |
| (仮称)生駒北学校給食センター整備運営事業 | (仮称)生駒北学校給食センター整備運営事業者を募集・決定し、基本・実施設計、建設工事を進め、平成 31 年度を目標に小学校の給食を開始する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・建設工事を竣工し小学校給食を開始した。 ・建設工事竣工：6 月 ・給食開始準備：8 月 ・給食開始：9 月 ・建設工事竣工 ・給食開始準備 ・給食開始 | A 建設工事を竣工し、小学校給食開始時期について、計画どおり進めることができた。 |

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
 A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
 B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
 C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【その他事業】

| 事業・取組名称 | 活動内容 | 実績・成果 | 評価 |
|-----------------------|---|---|---|
| | | 設定目標 | |
| 学校評議員会の設置・運営 | 地域住民等で構成される学校評議員会を設置し、地域に根づいた学校づくりを推進する。 | ・各校で計画的に開催し、学校評価につなげることができた。 — | A 全小中学校で学校評議員会を開催し、教育活動の点検・評価を行うことができた。 |
| 積極的な情報公開と学校評価の実施 | 学校評価を実施・公表し、改善点を明確にするなど、更なる学校経営の充実を図るとともに、ホームページでの情報掲載など、積極的な情報公開による開かれた学校づくりを推進する。 | ・3校で1日学校訪問を実施。 ・学校評価総括表を活用した学校評価を全校で実施。 — | A 学校評価総括表を活用した学校評価を全校で実施し、ホームページや学校だよりでの情報公開を実施できた。 |
| 安全教育の推進 | 交通安全教育の実施や迅速な不審者情報の提供など安全教育を推進する。 | ・子ども安全メール27回配信し、情報の周知を実施。 — | A 保護者や地域の方に携帯電話等を活用していち早く不審者情報を伝えることで、子どもを見守るための意識の向上や犯罪用紙に努めた。 |
| 食育の推進 | 給食指導や総合的な学習の時間等と連携した食に関する授業を実施する。 | ・校務分掌に食育推進部を設置し、食育推進計画に沿って取組を進めた。 — | A 学校保健・食育委員会等を開催し、食育の内容で保護者に啓発し、後援会等を実施した。 |
| 就学援助費の給付・遠距離通学費補助金の給付 | 児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、就学援助費の給付や遠距離通学費補助金を給付する。 | 就学援助費：794人、64,817,586円 遠距離通学費補助金：17人、265,200円 — | A 申請に基づき、支給することができた。 |
| 隣接校選択制の実施 | 子どもたちの安全な通学のため、通学に近い隣接した学校を選択できる制度を実施する。 | R1新入学希望者数：61名 — | A 希望者全員を受け入れることができた。 |

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

| 事業・取組 名称 | 活動内容 | 実績・成果 | |
|--|---|--|--|
| | | 設定目標 | 評価 |
| 院内学級の 設置 | 長期療養中の児童に 学習の機会を設け、 学力の補充と情緒の 安定を図るため、近 畿大学奈良病院に設 置している院内学級 で児童生徒の受入れ を行う。 | 院内学級受入数:1名 - | A R1年度は、1名 の受け入れにとど まったが、引き続 き必要に応じて受 入ができるよう、 体制を維持すると ともに、近大奈良 病院と協議し、中 学生の受入れも 可能とした。 |
| 地域ぐるみ の児童生徒 健全育成事 業 | 学校・家庭・地域が 連携し、地域の実態 や課題に沿った健全 育成活動を実施す る。 | ・中学校区で地域の 実態や課題に沿っ た話し合いや健全 育成活動を実施。 - | A 児童生徒の安全 や健全育成のた め地域の実態に 応じた特色ある 活動を推進でき た。 |
| スクールボ ランティア プログラ ム・学びのサ ポーター派 遣事業 | 地域住民がスクール ボランティア、市内 の大学生が学びのサ ポーターとして、学 校運営に協力し、学 校教育の充実をはか る。 | ・スクールボランティ アと協力し、学校教 育の充実を図った。 また、学びのサポー ターを年間473日 間、小学校に配置し た。 - | A 学びのサポーター を各小中学校へ 派遣することによ り、学校の取り組 みを支援し学校 教育の充実を図 った。 |
| 学校給食の 実施、安全 管理・衛生管 理 | 安心安全な学校給食 の提供のため、安全 管理・衛生管理を実 施する。 | 異物混入の防止に向 けた取組 - | A 異物混入を防ぐ ため、粘着ローラ ーの使用と鏡や 調理員相互の衣 服のチェックを徹 底した。 年に2回、栄養士 による衛生研修を 行い、調理員の資 質向上に努めた。 |

【評価による課題】

今後、学校施設の老朽化に伴う大規模改修が増加してくる見込みであることから、計画的に行っていく必要がある。また、学校教育のあり方検討委員会から答申を受けたが、保護者や地域に多大な影響を及ぼすことから、今後の小中学校のあり方について、慎重に検討を進めていく。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

学校評価総括表を活用した学校評価を全校で実施し、ホームページや学校だより等による積極的な情報公開を行い、開かれた学校づくりを進める。学校・家庭・地域が連携し、地域の実態に応じた特色ある教育活動を推進する。
また、今後の小・中学校のあり方について、保護者や地域の意見を伺いながら慎重に進めていく。

< 参考データ >

市立小・中学校 児童生徒数（R1.5.1 時点）

| 小学校名 | クラス数 | 児童数 |
|-------|------|-------|
| 生駒 | 24 | 585 |
| 生駒南 | 19 | 424 |
| 生駒北 | 10 | 157 |
| 生駒台 | 32 | 805 |
| 生駒東 | 24 | 586 |
| 真弓 | 26 | 642 |
| 俵口 | 21 | 481 |
| 鹿ノ台 | 25 | 608 |
| 桜ヶ丘 | 25 | 697 |
| あすか野 | 36 | 989 |
| 壱分 | 29 | 744 |
| 生駒南第二 | 11 | 211 |
| 合 計 | 282 | 6,929 |

| 中学校名 | クラス数 | 児童数 |
|------|------|-------|
| 生駒 | 20 | 568 |
| 生駒南 | 9 | 193 |
| 生駒北 | 5 | 93 |
| 緑ヶ丘 | 16 | 486 |
| 鹿ノ台 | 11 | 271 |
| 上 | 22 | 647 |
| 光明 | 15 | 400 |
| 大瀬 | 19 | 538 |
| 合 計 | 116 | 3,196 |

学校評議員会の開催状況

| 区分 | 構成人数 | | | 実施回数 | | |
|-----|------|----|----|------|----|------|
| | 3名 | 4名 | 5名 | 2回 | 3回 | 4回以上 |
| 校 園 | 3名 | 4名 | 5名 | 2回 | 3回 | 4回以上 |
| 幼稚園 | 4園 | 4園 | 0園 | 0園 | 8園 | 0園 |
| 小学校 | 3校 | 7校 | 2校 | 2校 | 9校 | 1校 |
| 中学校 | 6校 | 1校 | 0校 | 2校 | 5校 | 0校 |

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため開催を見送った学校がある。

学校給食の実施状況

| | 実施回数 | 給食費(月額) |
|-----|------|---------|
| 小学校 | 185回 | 4,150円 |
| 中学校 | 172回 | 4,550円 |

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

基本方針3 すべてのライフステージで、楽しみながら学び、地域とつながる機会づくり

1 人と本、人と人をつなぎ、まちづくりの拠点となる可能性に満ちた図書館づくり

【アクションプラン掲載事業】

| 事業・取組 名称 | 活動内容 | 実績・成果 | 評価 |
|--|--|---|--|
| | | R1年度の取組/設定目標 | |
| 子ども読書活動推進における家庭・地域・学校の新しい連携づくり | 家庭・地域・学校が互いに連携し工夫して、子どもの読書環境の整備を進めるため、課題解決となる実践的な活動に取り組む。 | 4回実施のべ172人、 基調講演88人参加。 ・子ども読書活動推進のため家庭・地域・学校それぞれの立場から課題を出し合い具体的な解決策を見出すワークショップを開催/ワークショップ開催回数:3回 | A 「トライ！生駒子ども読書3.0会議」を開催し、子ども読書推進に関する課題共有、目標設定を行い、参加者交流も図った。 |
| 「人を通して本を知る」「本を通して人を知る」をキャッチフレーズとするビブリオバトル市内中学生大会、全国大会の開催 | 図書館が本を通じて語り合う場となるとともに、自ら本を選ぶ力や語る力を育み、中学生の読書活動を推進するため、市内中学生大会と地域や年齢の枠を超えた全国大会を開催する。 | ビブリオバトル全国大会は中止。中学生大会は118人参加。 ・ビブリオバトル市内中学生大会の開催 ・ビブリオバトル全国大会 in いこまの開催/大会参加者数(市内中学生大会170人、全国大会380人) | B 全国大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。中学生大会は、会場をコミセンに変更したため図書館利用者の参加に繋がらなかった。 |
| 市民との連携や協創のもと、まちづくりの拠点となる図書館づくり | 市民との連携や「協創」のもと、人と本、人と人をつなぐ事業を行い、新たな文化を創造する「まちづくりのプラットフォーム」となる図書館を目指す。 | 「本棚のWA」2回、「お茶会@北分館×茶釜のふるさと」4回、「みなみの図書館“未在亭”」3回「まちかど図書室」11団体。 ・市民との連携や協創のもと、新規事業の開始/新規事業累計数:3事業 | A 他に南分館では若者のコミュニティ「本活部@Lib×ライブ」を、北分館では居心地のよい読書時間と空間を提案する「はばたきブックヒュッゲ」を開催。 |

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【その他事業】

| 事業・取組 名称 | 活動内容 | 実績・成果 | 評価 |
|-------------------------|--|---|--|
| | | 設定目標 | |
| 図書館の運営と充実 | 図書サービスや利便性の向上を図り、誰もが利用しやすい図書館運営を行う。 | 市民1人あたりの貸出冊数11.2冊。 - | A 平成29年10月から貸出冊数を1人5冊から12冊に増やしたことにより、市民1人あたりの貸出冊数は平成30年度よりも0.5冊増えた。 |
| 子ども読書活動の充実 | 子どもの健やかな成長の糧となるよう、ブックスタート事業など子どもの読書活動を推進する。 | 「おはなし会」5,469人、「絵本の会」2,341人参加。そのほか、ブックスタート、ブックトーク、児童の行事を各館で開催。 - | A 鹿ノ台図書室では、地域ボランティアが自主運営する「えほんの会」へ後方支援を行なうという新しい形の児童サービスを行った。 |
| 読書活動ボランティアの育成と協働による事業推進 | 読書活動ボランティアを育成するとともに、同ボランティアと協働し、読書に触れる環境を整備する。 | 音訳ボランティアを養成し「耳で楽しむ本の会」「出前耳で楽しむ本の会」を合わせて16回306人、宅配サービス377回。図書館託児事業「こあら」のボランティア養成を行った。 - | A 新規事業として託児ボランティアを養成した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため試行はできなかったが、保護者アンケートでは実施が待ち望まれるという声が大きかったため令和2年度では実施実現へつなげる予定である。 |

【評価による課題】

ビブリオバトルの楽しさを伝えるために出前授業などを行なっているが、図書館が部活や学習で忙しい中学生との関わりの場を増やすことに困難を感じている。「図書館とまちづくりワークショップ」から生まれた市民協働事業は3年目となったため、内容をより充実していく必要がある。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

ビブリオバトル中学生大会は、各校における予選から大会までを、中学校の学校司書や司書教諭などが実施することにより、生徒にとってより身近な大会となることで読書推進に効果がでるのではないかと考える。また、「お茶会@北分館×茶釜のふるさと」は、郷土を学ぶことにより、アクティブ・ラーニングにつながるようにプログラム内容を充実させる。

<参考データ>

図書館蔵書冊数等

| | 蔵書冊数 | 貸出冊数 | 貸出人数 | 利用券登録者数 |
|----------|---------|-----------|---------|---------|
| 平成 28 年度 | 642,018 | 1,226,912 | 438,878 | 60,972 |
| 平成 29 年度 | 648,088 | 1,202,428 | 427,904 | 58,835 |
| 平成 30 年度 | 644,138 | 1,285,801 | 422,029 | 55,510 |
| 令和元年度 | 647,236 | 1,340,657 | 387,103 | 52,535 |

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

2 文化・伝統・芸術を通じた、より豊かなまちの実現

【アクションプラン掲載事業】

| 事業・取組 名称 | 活動内容 | 実績・成果 | | 評価 |
|-----------------------|--|--|---|--|
| | | R1年度の取組/設定目標 | | |
| 生駒市茶道体験事業 | 市の文化を知る機会として、全国に誇る茶筌を使った茶道を出前授業のメニューの一つとするとともに、茶筌や茶道に触れる機会をさらに充実させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・市内各小学校(6年生対象 1,311人)で実施 ・新たに全小学校一律での茶道体験事業の実施 | A | 高山茶筌を使った茶道体験を通して子どもたちに市の伝統文化に親しむ機会を提供することができた。 |
| デジタルミュージアムのシステム変更 | 市の歴史・文化に触れる機会を増やし、郷土愛の醸成に資するため、誰もがスマートフォンなどで簡単にアクセスできる環境を整備する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・年間アクセス数(訪問者数) 14,603件 ・デジタルミュージアムのさらなる周知 ・掲載情報のタイムリーな更新とメンテナンス ・資料の閲覧可否のための仕分け作業 | A | 前年度アクセス数11,085件から3,518件増加しており、新規ユーザーも多く、利用促進することができた。 |
| 一緒に見て、一緒に考える愛とつながりの創出 | 市民自らが企画、運営し、青少年、子育て世代やシニア世代など幅広い世代に新たな出合いや地域のコミュニティ、絆を育むため、「愛にあふれる市民おすすめ映画上映会」を開催する。 | <p>H29年度で終了</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検証結果を踏まえ事業終了を決定 | - | - |
| 市民と行政が協創した音楽のまち生駒の創出 | 市民自らが企画・提案し、市民が音楽を身近に親しみ、地域の音楽活動を更に広げるために、「市民みんなで創る音楽祭」を開催する。 | <ul style="list-style-type: none"> 市民みんなで創る音楽祭の開催(11団体12事業、参加者数4,461人) ※うち2事業が新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止 ・市民みんなで創る音楽祭の開催/参加者:4,500人 | A | 11団体14事業の応募の中から11団体12事業を採択。新型コロナウイルス感染拡大の影響で2事業を中止したが、目標人数にほぼ到達しており、多くの市民に音楽に親しむ機会を提供することができた。 |

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

| 事業・取組 名称 | 活動内容 | 実績・成果 | 評価 |
|----------------------|--|---|--|
| | | R1年度の取組/設定目標 | |
| 市民と行政が協創した音楽のまち生駒の創出 | 吹奏楽を通じて、若者、子育て世代、シニアなどあらゆる世代が楽しめる市民吹奏楽団を設立する。また、楽団の活動成果として、地域に還元し、音楽の楽しさを発信する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・市民吹奏楽団定期演奏会(いこすいフェスタ)の開催 ・0才から楽しめるファミリーコンサートの開催 ・市民吹奏楽団の運営、事業開催(実施事業) ・市民吹奏楽団コンサート ・市内小中学校、高等学校と吹奏楽団との合同コンサート ・0才から楽しめるコンサート ・市主催事業における演奏 ・その他諸施設への訪問演奏 | <p>A</p> <p>市民吹奏楽団定期演奏会(6月16日)、0才から楽しめるファミリーコンサート(11月10日)の各事業を開催した。3月8日に予定していた「第3回いこま吹奏楽の日」は新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止したが、市主催事業にも出演するなど、「音楽のまち生駒」として、音楽文化の発展に貢献できた。</p> |

【その他事業】

| 事業・取組 名称 | 活動内容 | 実績・成果 | 評価 |
|--------------|---|--|--|
| | | 設定目標 | |
| 生涯学習施設の設備の充実 | 生涯学習施設の設備を充実させ、市民サービスの向上を図る。 | <p>図書館空調熱源設備改修工事を実施した。また備品の購入等も行い、生涯学習施設の設備の充実に努めた。</p> <p style="text-align: center;">-</p> | <p>A</p> <p>施設の安心・安全の確保や更なる市民サービス向上のため、施設・設備の改修工事や備品の更新等を計画的に実施する。</p> |
| 生涯学習施設の管理運営 | 市民の生涯学習の拠点となる生涯学習施設を適切に管理運営し、生涯学習の活性化につなげる。 | <p>生涯学習施設の利用者数：1,060,697人</p> <p>生涯学習施設の利用者数：1,075,000人</p> | <p>B</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大の影響で、2月下旬以降の利用が大幅に減少したことから、利用者数が目標数を下回った。引き続き利用者増に繋がる施設の管理運営に努める。</p> |

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

| 事業・取組 名称 | 活動内容 | 実績・成果 | | 評価 |
|------------------|---|------------------------------|------------------------------|---|
| | | 設定目標 | | |
| 生駒ふるさとミュージアム管理運営 | 市の歴史文化の普及のため、生駒ふるさとミュージアムの指定管理者と連携して、適切に管理運営する。 | 生駒ふるさとミュージアム来館者数(年間):7,534人 | 生駒ふるさとミュージアムの来館者数(年間):8,000人 | B 季節にあった企画展や特別展等の実施に加え、多くの講演会や、お正月イベント等、魅力あるイベントを開催した。 新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり目標人数には少し届かなかったが、今後も魅力ある事業の実施を通して来館者の増につなげたい。 |
| | | 生駒ふるさとミュージアムの来館者数(年間):8,000人 | | |
| 文化芸術事業 | 市民の文化芸術活動を活発化するため、成果発表会の場の提供や指定管理者の自主事業の実施、文化芸術団体との連携などを推進する。 | 生涯学習施設で行う文化芸術事業の満足度:97.4 | 生涯学習施設で行う文化芸術事業の満足度:98.5 | B 昨年に引き続き成果発表の場の提供等にも取り組んだが、指定管理者の自主事業の満足度が目標値まで上がらなかった。 |
| | | 生涯学習施設で行う文化芸術事業の満足度:98.5 | | |
| 生駒歴史文化友の会会員の増加 | 市民の方に、生駒市の歴史文化に親しみや関心を持ち、文化財愛護の精神や郷土愛を深めてもらうために組織した会の会員の増員を目指す。 | ・会員数:60人(うち子ども会員6人含む) | 会員数:100人以上 | B 昨年より5人会員数が減ってしまった。今後は、イベント等で積極的にPRしていきたい。 |
| 文化財保護と歴史文化の普及 | 市の歴史の普及を図り、郷土愛を醸成するとともに、市の貴重な文化財保護を行う。 | 歴史文化系講座聴講者数:636人 | 歴史文化系講座聴講者数:980人 | B 新型コロナウイルス感染拡大の影響で一部中止となったり集客が伸び悩んだ講座もあったため、目標に届かなかった。 市の文化財を活用した講座を開催するなど、今後幅広い世代を対象に生駒の歴史を学び郷土愛の醸成につながる事業を指定管理者と連携し実施する。 |

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価による課題】

それぞれの事業においては成果をおさめているものの、市民が継続的に本市の歴史文化に興味や関心、親しみを持ってもらえるような事業展開やPR、働きかけが必要である。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

引き続き市民が主役となって成果を披露する場づくりなど文化芸術事業に取り組むとともに、生駒ふるさとミュージアムを中心として多くの市民が本市の歴史文化に興味や関心、親しみをもち続けられるような事業展開や仕組みづくりに取り組んでいく。

<参考データ>

生涯学習施設の利用者数

| | 令和元年度 | | 平成30年度 | |
|---------------------|---------|------------|---------|------------|
| | 利用件数 | 利用人数 | 利用件数 | 利用人数 |
| たけまるホール | 11,852件 | 233,609人 | 12,267件 | 246,004人 |
| やまびこホール | 197件 | 4,080人 | 72件 | 2,439人 |
| 鹿ノ台ふれあいホール | 2,937件 | 48,025人 | 3,303件 | 54,543人 |
| 生駒市図書館 | 3,623件 | 93,637人 | 4,227件 | 114,431人 |
| 生駒市コミュニティセンター | 8,375件 | 185,362人 | 8,408件 | 182,636人 |
| 南コミュニティセンターせせらぎ | 7,962件 | 162,179人 | 8,426件 | 184,687人 |
| 北コミュニティセンターISTAはばたき | 11,603件 | 227,308人 | 12,556件 | 237,015人 |
| 芸術会館美楽来 | 5,013件 | 106,497人 | 5,088件 | 118,018人 |
| 合計 | 51,562件 | 1,060,697人 | 54,347件 | 1,139,773人 |

生駒ふるさとミュージアム来館者数

| | 大人 | 子ども | 合計 | 多目的室利用件数・人数 | |
|--------|--------|--------|---------|-------------|--------|
| 平成28年度 | 7,847人 | 3,034人 | 10,881人 | 351件 | 7,705人 |
| 平成29年度 | 7,257人 | 2,894人 | 10,151人 | 319件 | 6,297人 |
| 平成30年度 | 6,215人 | 3,084人 | 9,299人 | 352件 | 6,525人 |
| 令和元年度 | 5,828人 | 1,706人 | 7,534人 | 278件 | 4,072人 |

| |
|--------------------------------|
| 【評価基準】 |
| S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。 |
| A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した |
| B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない |
| C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない |

文化芸術事業の開催状況

| | 種 別 | 令和元年度 | | 平成30年度 | |
|------------|--------|-------|---------|--------|---------|
| | | 延べ回数 | 参加者数 | 延べ回数 | 参加者数 |
| 市主催事業 | 市民文化祭等 | 13回 | 15,672人 | 12回 | 22,539人 |
| 文化芸術団体補助事業 | コンサート等 | 5回 | 3,362人 | 5回 | 4,130人 |
| 指定管理者自主事業 | コンサート等 | 32回 | 20,074人 | 37回 | 14,370人 |
| | 講座 | 401回 | 11,334人 | 392回 | 8,831人 |
| 合 計 | | 451回 | 50,442人 | 447回 | 52,222人 |

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

3 「健康」「生きがい」「仲間」「まち」をつくるスポーツの発展

【アクションプラン掲載事業】

| 事業・取組 名称 | 活動内容 | 実績・成果 | | 評価 |
|--------------------|--|---|---|--|
| | | R1年度の取組/設定目標 | | |
| 総合型地域スポーツクラブの推進・支援 | 市民のスポーツ活動を推進するため、総合型地域スポーツクラブの活動内容等の周知啓発を行うとともに、クラブ運営に関する助言や施設利用、広報等における支援を行い、会員数の増加及び安定したクラブ運営となるよう活動をサポートする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・広報掲載、チラシ配布等による周知啓発活動の支援。 ・「生駒市総合型地域スポーツクラブ連携会議」の開催(1回)。 ・会員数:807人 | <ul style="list-style-type: none"> ・各クラブに対する活動支援/会員数:800人 | <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種イベントや学校等を通じたチラシの配布により、会員数が増加している。 ・「生駒市総合型地域スポーツクラブ連携会議」を開催し、意見交換を行う等、各クラブの交流を図った。 |
| 障がい者スポーツ活動の推進 | 障がい者が障がいの種類や程度に応じて、地域においてスポーツ活動を行うことができるような事業を実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者(児)を対象としたイベントの実施〔温水プール開放イベント(2回)、体育館開放イベント(2回)〕 ・障がい者スポーツ用品の購入及び活用(パラシュット、相撲マット等) ・障がい児用運動プログラム(案)作成 | <ul style="list-style-type: none"> ・事業の実施 ・障がい者、障がい児用プログラムの検討/開催回数:4回 | <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者(児)対象の体育施設開放イベントを実施した。 ・購入した障がい者スポーツ用品をイベントで使用するとともに、障がい者団体等にも貸し出したことによって、障がい者のスポーツ活動推進のきっかけとなった。 ・作業療法士と連携し、障がい児用運動プログラム(案)を作成した。 |

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

| 事業・取組 名称 | 活動内容 | 実績・成果 | 評価 |
|--------------|--------------------------------------|--|--|
| | | R1年度の取組/設定目標 | |
| トップアスリート連携事業 | メダリストやトップアスリートなどを招き、スポーツ教室や講演会を開催する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・国内トップ選手によるトレイルランニング教室や元プロ野球選手による野球教室を実施。 ・東京2020オリンピック・パラリンピック開催啓発事業として、いこまどんどこまつりで「東京オリ・パラ音頭」の披露やオリ・パラうちの配布。 ・台風の影響や新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ラグビーワールドカップ日本大会出場選手によるラグビー教室とちびっこ相撲体験会は開催直前で中止となった。 ・事業の実施/開催回数：5回 | <ul style="list-style-type: none"> ・普段は、直接指導を受けることができないトップアスリートとのふれあいを通して、スポーツに憧れや夢を抱けるような機会を提供することができた。 ・ラグビーワールドカップ日本大会出場選手によるラグビー教室とちびっこ相撲体験会は、定員を上回る応募者があったが、台風の影響や新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。 |

【その他事業】

| 事業・取組 名称 | 活動内容 | 実績・成果 | 評価 |
|--------------|--|--|---|
| | | 設定目標 | |
| 健康ウォーキング等の推進 | 生駒山スカイウォークやチャリロゲいこまなど、誰もが気軽に参加でき、スポーツを始めるきっかけとなるイベントを開催する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生駒山スカイウォーク：1,150人 ・チャリロゲいこま：151人 ・生駒山スカイウォーク：1,200人 ・チャリロゲいこま：150人 | <ul style="list-style-type: none"> ・市内では、スポーツをはじめとする様々な増えてきている中、18回目を迎えた生駒山スカイウォークについては、参加者が減少傾向にある。 ・チャリロゲいこまについては、司会者に元自転車アイドルを起用し、大会の魅力向上を図った。 |

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

| 事業・取組 名称 | 活動内容 | 実績・成果 | 評価 |
|-------------------------|--|--|--|
| | | 設定目標 | |
| 子ども体力 向上事業の 実施 | 子どもの体力向上を 目指すため、子ども を対象としたスポー ツイベントを開催す る。 | 子どもを対象としたイ ベント・事業の参加 者数：1,874人 | B 子どもの体力向 上施策として、陸 上長距離走記録 会や水泳競技大 会など種目別ス ポーツ競技会を 実施するととも に、スポーツを始 めるきっかけとな るよう体育館無料 開放事業等を開 催した。 下半期は、台風や 新型コロナウイルス 感染拡大防止 のため、一部の事 業が中止となっ た。 |
| | | 子どもを対象としたイ ベント・事業の参加 者数：2,300人 | |
| スポーツ、レ クリエーシ ョン活動 | 様々なニーズに合っ たイベント、講座等 を開催し、誰もがス ポーツに触れること ができる環境を整備 する。 | 市内各種スポーツイ ベントなどの参加者 数：25,375人 ※新型コロナウイル ス感染拡大防止の ため一部事業を中 止したが、目標を 達成することがで きた | A 総合型地域スポ ーツクラブや体育 施設指定管理者 と連携して、だれ もが気軽に参加 できるスポーツイ ベントを開催し、 スポーツ施策の 充実を図ることが できた。 |
| | | 市内各種スポーツイ ベントなどの参加者 数：20,000人以上 | |
| 社会体育施 設の管理運 営 | 市民のスポーツ活動 の拠点となる社会体 育施設を適切に管理 運営し、スポーツ環境 の整備を図る。 | 市内体育施設の利用 者数：1,002,313人 ※新型コロナウイル ス感染拡大防止の ため一部施設を休 館したが、目標を 達成することがで きた | A 指定管理者と連 携し適切な管理 運営に努めること により、市民サー ビスの向上との施 設の安全な使用 に努めた。 |
| | | 市内体育施設の利用 者数：1,000,000人 | |

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

| 事業・取組 名称 | 活動内容 | 実績・成果 | | 評価 |
|--------------------------|--|--|---|---|
| | | 設定目標 | | |
| スポーツ推進審議会の開催、スポーツ推進委員の運営 | 審議会を通じて専門家や市民から市のスポーツ施策に関する意見を聴くとともに、地域住民であるスポーツ推進委員と協働してスポーツの普及を図る。 | スポーツ推進審議会 開催回数：2回 スポーツ推進委員 会議：2回 研修会等：6回 実技指導：12回 その他地域での実 技指導等 | — | A スポーツ推進審議会での協議、スポーツ推進委員の実技指導等の活動により、更なるスポーツの推進が図れた。 |

【評価による課題】

総合型地域スポーツクラブは、地域スポーツを支えていく必要があることから、安定運営のための会員数確保に向け更なる支援が必要である。また、子どもから高齢者、障がい者などの多様なニーズに対応できるスポーツ環境の更なる充実が求められる。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

アクションプラン掲載事業である「障がい者スポーツ活動の推進」「総合型地域スポーツクラブの活動支援」「トップアスリート連携事業」について積極的に推進する。また、自宅で気軽にできる簡単トレーニングの普及など、新しい生活様式に合わせたスポーツ活動を展開していく。

<参考データ>

スポーツ、レクリエーション活動の実績 (人)

| 事業名 | R1 | H30 | 事業名 | R1 | H30 |
|--------------|-------|-------|--------------|-------|-------|
| 体育大会 | 5,475 | 5,498 | 体育館無料開放 | 1,216 | 1,362 |
| 体育祭 | 2,039 | 2,050 | 学校体育施設開放 | 2,916 | 2,918 |
| ファミリースポーツの集い | 140 | 270 | 生駒ふれあい市民マラソン | 369 | 411 |
| 小学生長距離走記録会 | 180 | 189 | 生駒山スカイウォーク | 1,150 | 中止 |
| スポーツ教室 | 5,966 | 5,387 | チャリロゲいこま | 151 | 111 |

社会体育施設の利用実績

(人)

| 施設名 | R1 | H30 | 施設名 | R1 | H30 |
|-------------|---------|---------|---------|-----------|---------|
| 生駒北スポーツセンター | 163,583 | 129,586 | 滝寺公園 | 191,866 | 210,891 |
| イモ山公園 | 56,207 | 53,875 | むかいやま公園 | 49,220 | 51,711 |
| 北大和 | 97,670 | 105,653 | 小平尾南 | 48,493 | 56,354 |
| 総合公園 | 163,718 | 133,784 | 井出山 | 207,157 | 218,419 |
| 山麓テニス | 24,399 | 21,921 | 合計 | 1,002,313 | 982,194 |

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

4 すべての人が楽しく安心して成長できる機会の確保

【アクションプラン掲載事業】

| 事業・取組 名称 | 活動内容 | 実績・成果 | 評価 |
|---------------------------|--|---|---|
| | | R1年度の取組/設定目標 | |
| 幅広い世代への学ぶ機会の提供と地域の人材発掘、活用 | 生涯学習の成果が地域社会に還元される機会として、さまざまな専門分野の知識や技能を持った市民や地域で活動するボランティア、NPO等が「先生」となって子どもから大人を対象に、学びたいことを気軽に学べる「街の学校」として、「IKOMAサマーセミナー」を開催する。 | <p>「IKOMAサマーセミナー2019」(令和元年8月18日)/講座数:81講座 生駒小学校、コミュニティセンター、ふるさとミュージアムで開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「先生」となる人材の募集、カリキュラムの構成 ・市民主体の実行委員会方式による「IKOMAサマーセミナー」の開催/講座数:80講座 | <p>A</p> <p>今回は初めて小学校を含む3ヶ所複数会場で開催し、のべ1,309人が参加した。市民の学びに対するニーズに応えるとともに、地域で活躍するきっかけづくりになっており、今後は実行委員会が主体となって事業を進められるよう取り組んでいく。</p> |
| 困難を抱える子ども・若者への支援 | 子ども・若者が自立した社会生活を営むことができるように、各関係機関・団体との情報交換や個別のケース検討などを行う「子ども若者支援ネットワーク」を設置し、総合相談窓口を設ける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生駒市子ども・若者支援ネットワークの運営を行うとともに、「生駒市子ども・若者総合相談窓口(ユースネットいこま)」を運営し、相談支援を行った。 ・相談人数 118人 進路決定者数13人 ・子ども・若者支援ネットワークの運営 ・不登校やニート、ひきこもり等に対する総合相談窓口の運営 ・訪問事業実施/相談人数:100人、進路決定者数:30人 | <p>B</p> <p>各自治会・市内小中学校へのポスター掲示、広報「いこまち」の特集記事掲載等で周知を図り、相談人数の実績は増えてきている。しかし、進路決定まで時間を要する当事者も多いことから、今後もネットワークと連携しながら継続的な支援が必要である。</p> |

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

| 事業・取組 名称 | 活動内容 | 実績・成果 | 評価 |
|--------------------------------|---|---|--|
| | | R1年度の取組/設定目標 | |
| 高齢者の力のまちづくりへの活用 | 高齢者の学習意欲を引き出し、まちづくりに貢献できるような人材を育成していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・寿大学の実務講習会を36講座から37講座に拡充 ・寿大学の現役の学生・卒業生等が中心の「寿生駒連絡協議会(愛称:気らくネット)」が、幼稚園の預かり保育の補助や小学校学年園の整備等、積極的に地域活動に取り組んだ。 ・寿大学生及び卒業生による社会貢献活動を目的とした組織「寿生駒連絡協議会(気らくネット)」を活用した事業等の実施 | <p>A</p> <p>調整会議等で寿大学の学生との意見交換の場を有効活用し、学習意欲を高める学習課程の充実に努めた。 今後引き続き改善に努め、社会貢献、まちづくりに繋がる人材育成に努める。また卒業後においても地域で活躍できるように、気らくネットやOB会への加入へ繋げていく。</p> |
| 多様性を認め合い、他者や地域に頼ることのできる場・環境の創出 | 「ユニバーサルキャンプ in いこま」の開催など、障がいの有無や国籍、性別などの個々人の違いや多様性を理解し、認め合うことのできる機会を提供する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「ユニバーサルキャンプ in いこま」の開催/参加人数58人 ・「ユニバーサルキャンプ in いこま」の開催/参加者数:100人 | <p>B</p> <p>例年は夏休み期間中に開催していたが、今年は猛暑期を避け9月に開催したため、参加人数が定員に達しなかった。来年度は事業内容の充実を図るため、プロポーザル方式で業者を決定する。</p> |

【その他事業】

| 事業・取組 名称 | 活動内容 | 実績・成果 | 評価 |
|----------------------|--|---|---|
| | | 設定目標 | |
| 自主学習グループの学習成果の社会還元促進 | 市民向け学習会や施設への慰問を通して、自主学習の成果を社会還元活動につなげてもらう。 | <ul style="list-style-type: none"> 市民向け公開講座(福祉施設への慰問を含む)344回 市民向け公開講座(福祉施設への慰問を含む):480回 | <p>B</p> <p>自主学習グループの会員の高齢化が進み活動が縮小傾向にあるグループも増えてきたが、地道に活動を続けるグループも多い。</p> |

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

| 事業・取組 名称 | 活動内容 | 実績・成果 | | 評価 |
|-----------------------|---|-------------------------|---|--|
| | | 設定目標 | | |
| 生涯学習まちづくり人材バンクの活用 | 生涯学習に関する専門的な知識や経験、技能等を有している人に生涯学習まちづくり人材バンクに登録してもらい、積極的に活用する。 | 生涯学習まちづくり人材バンク活用件数：471件 | A | チラシ等の配布やHP等を通じて市民に情報を提供し、活用促進に努めた。 |
| | | 生涯学習まちづくり人材バンク活用件数：430件 | | |
| 青少年健全育成の啓発及び非行防止活動の実施 | 青少年指導委員の活動や啓発活動等を通じて、青少年の健全育成、非行防止活動を実施する。 | 青少年健全育成事業参加人数：5,219人 | B | 各種団体と協働し、充実した事業を実施できたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、スプリングキャンプは中止した。 |
| | | 青少年健全育成事業参加人数：5,300人 | | |
| 家庭教育学級の開設 | 市内幼稚園を対象に家庭教育学級を開設し、保護者に対して子育てに関する情報提供を行う。 | — | | 令和元年度から家庭教育支援チームによる事業に移行 |
| | | — | | |

【評価による課題】

あらゆる年齢層の市民に学びの機会を提供するとともに市民自身が活躍する機会を提供してきたが、市民自身が学習した成果を生かしてまちづくりの場で活躍する機会をさらに広げていく必要がある。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

市内小・中学校の環境整備や「コミュニティ・スクール」の展開を好機として、「気らくネット」や「家庭教育支援チームたけのこ」をはじめとした市民主体のグループが学校場でそれぞれの特性を生かした活動を進めるなどにより、「学習の成果をまちづくりにつなげる仕組みづくり」や「地域と学校の連携」をさらに進化させていく。

<参考データ>

いこま寿大学の在籍者数等

| | クラブ数 | 在籍者数 | 入学者数 | 定員 | 応募者数 | 卒業者数 |
|-----|------|------|------|-----|------|------|
| H29 | 14 | 806 | 193 | 281 | 193 | 203 |
| H30 | 14 | 753 | 228 | 281 | 246 | 196 |
| R1 | 14 | 753 | 196 | 275 | 202 | 165 |

教職員がいきいきと子どもと向き合う時間創造プログラムの取組状況

取組方針 1 マンパワーを充実します

| 具体的取組名 | | | 実施時期 | 取組状況 |
|--------|--------------------|----|------|---|
| (1) | 専門スタッフの配置 | 拡充 | 2019 | 教育委員会事務局や教育支援施設に退職教員等を専門スタッフとして配置し、教職員や保護者への教育相談を実施 |
| (2) | 部活動支援員の拡充 | 拡充 | 2019 | 7 中学校へ 14 名の部活動支援員を派遣 |
| (3) | 小学校英語専科教員の配置 | 新規 | 2018 | 俵口小学校、生駒台小学校を兼務する英語専科教員を配置 |
| (4) | サポートスタッフの配置 | 新規 | 2020 | 小学校 1 校にスクール・サポート・スタッフを配置 |
| (5) | 学校支援ボランティア、地域人材の活用 | 拡充 | 2019 | 学びのサポーターを 31 名採用、わくわくイングリッシュサポーターを小学校高学年の各学級に年間 15 時間ずつ配置 |

取組方針 2 時間を意識した働き方を徹底します

| 具体的取組名 | | | 実施時期 | 取組状況 |
|--------|---------------------|----|------|---|
| (1) | 学校閉庁日の設定 | 新規 | 2019 | 8 月 12 日から 15 日までを学校閉庁日に設定 |
| (2) | 留守番電話の設置 | 新規 | 2019 | 全小・中学校に留守番電話を設置し、児童生徒の帰宅時刻以降は、留守番電話による対応 |
| (3) | 部活動休養日及び部活動時間の徹底 | 新規 | 2018 | 週 2 日の部活動休養日及び平日 2 時間、土日・休日・長期休業日 3 時間の部活動時間の徹底 |
| (4) | ICT による勤務時間の把握 | 新規 | 2018 | グループウェアの活用による教員の出退勤時刻の把握 |
| (5) | 管理職マネジメント研修の充実と意識改革 | 新規 | 2019 | 働き方改革やコミュニティ・スクールの研修会の実施 |
| (6) | 教職員全体の意識改革 | | | |
| | ① 最終退勤時刻の設定および徹底 | 新規 | 2019 | 市教育委員会において、勤務時間の上限に関する方針を策定し、各校に周知徹底 |
| | ② 定時退勤日の設定および徹底 | 新規 | 2019 | 市教育委員会において、勤務時間の上限に関する方針を策定し、各校に周知徹底 |

取組方針 3 事務処理を効率化します

| 具体的取組名 | | | 実施 時期 | 取組状況 |
|--------|-----------------|----|----------|--|
| (1) | 統合型校務支援システムの導入 | 新規 | 2019 | モデル校に校務支援システムを導入し、2020年度から全校に導入予定 |
| (2) | ICT を活用した教材の共有化 | 継続 | 2017 | グループウェアのフォルダや掲示板を活用し、情報共有を実施 |
| (3) | ICT を活用した情報の共有化 | 新規 | 2018 | グループウェアのフォルダや掲示板を活用し、情報共有を実施 |
| (4) | 給食費の徴収業務の移行 | 新規 | 2020 | — |
| (5) | 事務機能の強化 | 新規 | 2019 | 学校事務グループワーキングを引き続き開催し、学校事務機能を充実 |
| (6) | 諸調査の精査及び削減 | 新規 | 2019 | 調査事項の重複を削減するとともに、統合型校務支援システムの導入により、アンケート調査を簡略化 |
| (7) | 各種事務の精査及び削減 | 新規 | 2019 | 統合型校務支援システムの導入により、指導要録をデジタル化 |

生駒市教育大綱(第1次)の総括

生駒市教育大綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3の規定に基づき、平成28年6月に本市で初めて策定された。

本大綱は、特色で示されたとおり、市長と教育委員会において何度も活発な議論を重ねるとともに、市民との「協創」により作り上げられたものである。

大綱に基づく取組を進めるにあたっては、アクションプランを策定することにより、計画的な取組の推進と、毎年度評価と改善を繰り返すことにより実効性を確保することとし、アクションプランを着実に進めることにより、基本理念と基本方針の実現に向けた取組を概ね進めることができたと考える。

今後は、新たな教育大綱に基づく取組を進めていくこととなるが、新型コロナウイルスによる社会情勢の大きな変化において、これまでの教育を維持していくことが困難になるなど、教育の形が大きく変わろうとしている。

このような状況において、教育委員会だけではなく、教育現場はもちろんのこと、市議会、市長、市民の力を結集して進めていくことが不可欠である。

このことから、教育委員会としては、教育行政の一翼を担う者として、子どもの学びを保障する責任と自覚をもって、引き続き様々な関係者等との「協創」のもと、生駒市の教育の発展に尽くしていきたい。

点検及び評価に関する意見

(1) 教育委員会の活動状況に対する意見

生駒市では4年サイクルで作成される「教育大綱」を基本理念とし、毎年「アクションプラン」を更新することで教育理念の具現化を図ってきた。

令和元年度は「教育大綱」が策定されて4年目にあたり、第1次教育大綱の総括年度となる。そして、令和2年度より第2次教育大綱がスタートした。

アクションプランは市長マニフェストと連動するとともに「PDCA」が年度ごとに活かされ、多様な成果につながったと考える。

第2次教育大綱ではこの4年間の総括を明確にし、日々変動する現場の課題を十分踏まえ、新たなスタートとしていただきたい。

特に世界を大混乱に巻き込んでいる新型コロナウイルス感染症の猛威は、学校現場にも過去経験したことのないような混乱を引き起こしている。

教育大綱(第1次)の総括にあるようにコロナの影響による社会情勢の変化を受けて、「これまでの教育」が維持できない状況も起こっている。まさに今は「withコロナ」の教育の在り方が問われている。市を挙げて子どもたちの「健康・安全」と「安心出来る学習環境」を守れるよう全力で取り組んでいただきたい。

(2) 生駒市教育大綱に基づく施策・事業に対する意見

基本方針1 子育てを楽しむ地域づくり(子育て・就学前教育)

1 保護者支援の場・コミュニケーションづくり

「子育ての孤立化の防止と地域で支え合う子育ての推進」では、特に父親の育児への取組事業で参加者が減少しB評価となった。コロナ禍で先行きの見通しが立たない中、参加者を伴う事業については実施方法の見直しが必要と思う。

妊婦期から子育て期にわたり、切れ目のない子育て支援事業が展開されていて評価する。今後とも様々な家庭に応じた支援をお願いしたい。

待機児童解消の問題は本年度もB評価である。しかし、小規模園の開園にともない、受け入れ数が増加した。また希望園集中については、コンシェルジュ配置できめ細やかに対応できたのは評価に値する。保育士不足等により待機児童解消に至っていない点等、課題解消に向けた取組を更にお願したい。

2 「遊び」を「学び」につなぐ就学前教育の充実

学校教育のあり方検討委員会からの答申を受け、幼稚園の子ども園化を含めた施設規模の適正化について検討されている。児童数の減少も考慮し、そして、深刻な問題である保育士不足を解消できるように給与改善面からも一層の努力を求めたい。

基本方針2 21世紀を生き抜く優しくたくましい人づくり(学校教育)

1 21世紀を生き抜く力を身につける学びの創造

小学校での新学習指導要領の改訂で、教育課程や指導の確実な実施に伴い、「主体的・対話的で深い学び」や「外国語科」の導入など教育を取り巻く環境が大きく変わろうとしている。学校司書と司書教諭の連携、ICT教育の推進・教職員の研修、スマートフォンの適切な利用についての周知、グローバル時代に対応した英語教育の推進等、専門性をもった適切な人材の確保が大きな支援となる。

学級担任とALTが連携して授業を推進していく等、行政と学校現場、専門性を持った人材が互いに力を合わせ、機器導入や人的支援が子どもたちの健全な育

成に効果を発揮できるよう支援していただきたい。その上、新型コロナウイルス感染等、思いもよらない緊急事態の対応も求められる。コロナ流行による学校休校に伴いICT機器を活用し、学校だけでなく学校と家庭を結ぶツールとして利用していくこと等、新たな学びの環境整備も求められる。今後も予算措置を望むとともに、緊急事態にも素早い的確な対応と行政指導をお願いしたい。

2 多様性を認め優しい心と、挑戦を続けるたくましい心の育成

いじめ根絶に向け、すべての組織が自らの課題と捉え主体的に取り組がなされていると思うが、コロナ禍がこれからも続く中で、子どもたちの様子も察知しづらくなってくると考えられる。教員が児童生徒の出す信号に素早く対応するためにも昨年度から新たに加えられた「教職員がいきいきと子どもに向き合う時間創造プログラム」の具体的な成果に大いに期待したい。

各校園に「スクールカウンセラー」「スクールソーシャルワーカー」「スクールアドバイザー」等が派遣され、「カウンセリング」や「教育相談」の充実が図られている。また、教育支援体制として、「教育相談室」「適応指導教室」「言葉の教室・通級指導エル」等も成果を上げていて評価し、更なる充実に向けた取組をお願いしたい。

3 子どもや学校のチャレンジを応援する仕組みづくり

生駒こどもチャレンジ補助事業として様々な事業が行われていることを評価する。

学校現場で、ニーズの多様化、指導者不足が切実な課題となっているが、新型コロナウイルスの終息まで、見通しの立てづらい中、部活動への外部指導者の派遣等、教育現場への適切な人材の派遣を今後も期待している。

「あこがれいこまびと講演事業」はB評価である。コロナ感染拡大の中にあって課題も多いが、地域出身者の人材発掘に更に努力していただき、郷土愛を持ち、児童生徒が未来への夢を創造できる事業の継続と発展をお願いしたい。

4 学びを支える教職員、学校への支援

各事業がA評価されているとおり、教職員や学校への支援が行われていて評価するとともに今後も期待している。

コロナ禍にあって、感染防止策をはじめ、子どもたちの心身の変調等、教職員は新たに重要な任務を担ってくる。行事の見直しや削減、精選も今後必要となってくるだろう。

想定できない状況も考えられ、現場と行政が連携し素早い対応を求められる。また、そのような中で、児童・生徒の成長、学習能力向上のために教員はさらに自己研修に努めていただきたい。

「生駒市の小中一貫校の方向性の決定」や、「学校評議員制度」、「学校評価」の実施及び積極的な情報公開、「スクールボランティアとの協力」「地域ぐるみの児童生徒健全育成事業」等々、引き続き地域の実態に応じ特色ある教育活動がなされていることを高く評価し、今後も期待したい。様々な状況の中にあっても、子どもたちが安心して楽しく学校生活を送れ、教職員も充実した日々を送れるよう願っている。

基本方針3 すべてのライフステージで、たのしみながら学び、地域とつながる機会づくり（生涯学習）

1 人と本、人と人をつなぎ、まちづくりの拠点となる可能性に満ちた図書館づくり

図書館は単に本を貸し出すだけでなく、本を通じて人と人との「ふれあいを深める空間」としての大切な役割を担っている。6か所ある本市の図書館では、各館が独自の工夫や企画を取り入れ「まちづくりの拠点」となるべく「図書館づくり」を進めている。

また、市内各学校との連携事業をはじめ、障がい者や高齢者向けの事業も企画するなど、「すべての人にやさしい図書館づくり」に力を入れている。

コロナ対策の影響で「ビブリオバトル全国大会」が中止となった。大変残念ではあるが、「中学生大会」をはじめ各図書館での様々な取組が定着し安定した事業運営になっている。高く評価したい。

新事業の家庭・地域・学校の連携による「子ども読書活動推進」のワークショップも期待される取組である。第二次のアクションプランにも取り入れ、継続していただきたい。

なお、「図書館の運営と充実」が昨年度のBからAに向上した。一人あたりの貸し出し冊数を5冊から12冊に拡大したことが、利用者の利便性も増し、貸し出し冊数の伸びにつながったと考えられる。この点についても高く評価したい。なお、貸出人数・利用券登録者数に減少が見られる点については、よく分析して来年度に活かしてほしい。

2 文化・伝統・芸術を通じた、より豊かなまちの実現

市民が地域に根付いた文化・芸術・伝統産業などに目を向ける意義は大きい。より豊かに成熟した文化都市「生駒」の実現を目指し、市民が生駒市の歴史や文化に関心と親しみを持って、主体的に触れ合える場が求められる。

アクションプラン掲載の4事業では市民の積極的な参加がみられ、着実に成果につながっている。またそれぞれの取組が市民のあいだに定着してきており、全てA評価されているように高く評価したい。特に「音楽のまち生駒」の創出においてはコロナの影響で中止された事業もあるが、年間を通じて市民が音楽に親しめる事業が企画され、参加団体・事業日数・集客数も目標をほぼクリアしている。市民主導の運営移行も定着し「音楽のまち生駒」にふさわしい「音楽文化」の根づきがみられる。

デジタルミュージアムは年々アクセス数が増加してきており確実に成果を残している。今後、三密を避けなければならないコロナ事情も加味し、他の事業でもデジタル化の取り入れを工夫してほしい。

「その他事業」の項目でB評価が多くなっているが、コロナの影響もあり、来館者数の減少が見られる点はやむなき結果といえる。今後、成果・目標の達成は大切であるが、第1に感染防止が重要であり、十分な対策を実施したうえでの事業展開を望みたい。

3 「健康」「生きがい」「仲間」「まち」を作るスポーツの発展

「健康」や「生きがい」の基礎ともなるスポーツの発展は、「文化」・「芸術」とともに「豊かなまちづくり」を支える大切な柱の一つである。生駒市では古くから様々な形でスポーツ活動の推進に取り組んできた。そして、それらは多くの市民や団体が楽しく参加できるスポーツイベントとして定着している。地道に積み上げてきた取組の成果であると評価したい。

アクションプランでは、「総合型地域スポーツクラブの推進・支援」「障がい者スポーツ活動の推進」「トップアスリート連携事業」を挙げているが、それぞれA評価となっている。

総合型地域スポーツクラブは「多種目・多世代」で「いつでも・どこでも・誰でも」が参加できるスポーツ環境の在り方として推進されてきた。会員数も増加しており評価される。また今後の課題として、様々な位置付けで存在するスポーツクラブを総合型で統括できるような方向性も検討していただきたい。

障がい者スポーツでは、新規事業として作業療法士との連携の下、「障がい児用運動プログラム」の作成に取り組んでいる。市内各箇所で実用化され多くの子どもたちのスポーツ支援につながることを期待する。

トップアスリート連携事業は天候やコロナの影響で中止となった事業もあるが、子供たちに憧れや夢を与える機会として大いに期待される。今後も様々な分野のアスリートと連携をはかり魅力的な企画をお願いしたい。

その他の事業においてもコロナの影響で中止になるなどB評価につながっている面が多くある。残念な状況ではあるが、現況の中で可能な工夫をお願いしたい。

4 すべての人が楽しく安心して成長できる機会の確保

「IKOMAサマーセミナー」は、子どもから大人まで幅広い世代が学びたいことを気軽に学べる「町の学校」であり、様々な専門性を持った市民や地域ボランティアまたNPOが先生となって開催される。

成熟した生涯学習を支える新しい講座の形式として限りなく可能性が広がっている。本年度は複数会場で81講座を開設し、延べ1,309人の参加をみた。更に

これからは実行委員会が主体となって運営できるような方向性を目指している。新たな「街の学校」としての位置付けがしっかりと確立され、大きな成果につながっている。今後更に拡大・充実していくことを期待したい。

困難を抱える子どもや若者を教育行政としてどのように支援していくかは、非常に重要な課題である。特に学校を卒業した若者のニートや引きこもりなどには、なかなか支援が届かないケースも多い。本人はもとより家族・関係者まで行き詰まる事例がみられる。「子ども・若者支援ネットワーク」や「相談窓口の設置」、さらには「訪問事業」等の生駒市の取組は、そういった若者や関係者の支援事業として大いに期待できる。しかし、現実的には各ケースごとに様々な難しい課題に直面する。今後更に制度の整備並びに運営面での充実、また人的整備など積極的な取り組みをお願いしたい。

高齢社会において高齢者の豊富な知識と経験が活かされる街づくりが望まれる。寿大学の学生やOBを中心とした様々の取組は心強く大きな意味を持つ。豊かな経験と知識・技能が生かされ、多くの人の活躍の場が広がることを期待したい。

「ユニバーサルキャンプ in いこま」は開催時期の変更で参加人数の減少につながったが、猛暑を避けることも大切な判断である。次年度より、プロポーザル方式による取り組みで事業の充実を期待したい。

(3) 教職員がいきいきと子どもと向き合う時間創造プログラムに基づく取組に対する意見

マンパワーの充実については、継続事業及び新規事業ともに実施計画にしたがって順次人材配置が進んでいる。現場にとって大きな支援となり、しいては子どもたちの日々の学習に反映されることとなる。予算の伴うことであり一気に十分な配置を行うことは難しいと思うが、可能な限りマンパワーの充実を進めてほしい。

時間を意識した働き方の徹底では、教職員の意識改革を進めるため研修活動を行い、また様々の面でシステム的変更や工夫も実施されている。こういった改革

は一般企業と異質な側面を持つ教育現場でどのように受け入れられ馴染むかという懸念もあった。しかし徐々にいい形で定着しつつあると感じる。そして重要な事は、教職員の働き方改革が最終的に子どもたちにどのように反映されるかということである。その視点を見落とすことなく現況を踏まえて進めていただきたい。

事務処理の効率化においては、統合型公務支援システムの導入や、ICTを活用した情報の共有化、事務内容の精査・削減などの取組が進んでいる。事務処理がより効率的になり、また精査によるスリム化が進むよう期待したい。教職員の大きな負担になっている給食費徴収(特に未納者の徴収)の業務移行が、出来るだけ早く実現するようお願いしたい。

令和2年8月19日

生駒市教育委員会活動点検評価委員 樋口 幸雄

生駒市教育委員会活動点検評価委員 岡島 洋子